

# FileMaker® 9

## インスタント Web 公開ガイド



© 2004-2007 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.  
5201 Patrick Henry Drive  
Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカー及びファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ScriptMaker は、FileMaker, Inc. の商標です。その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

また、製品及びサンプルファイル等に登場する会社名、氏名、住所などのデータは全て架空のもので、実在する企業、人物とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。

他社の製品に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。

詳細情報については [www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) をご覧ください。

# 目次

<b>第 1 章</b>	
<b>Web 上での FileMaker Pro データベースの公開について</b>	5
このガイドについて	6
インスタント Web 公開の条件	6
インターネットまたはイントラネットへの接続	7
FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて	7
FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホストについて	7
Web 公開における改善点	7
旧バージョンの FileMaker Pro のファイルの公開	8
FileMaker Pro 7 および FileMaker Pro 8 のファイルの公開	8
ファイルメーカー Pro 6 以前のファイルの公開	8
<b>第 2 章</b>	
<b>Web 上へのデータベースの公開</b>	9
インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有	9
インスタント Web の言語の選択	10
Web 公開時のポート番号の指定	10
Web 接続の最大数の確認	11
指定した IP アドレス以外のアクセスの制限	12
非アクティブな Web アカウントの接続解除	12
HTML ページからデータベースへのリンク	12
カスタムホームページの使用	13
静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開	13
静的なデータの一般的な公開手順	14
<b>第 3 章</b>	
<b>Web 上での FileMaker データベースの操作</b>	15
Web ブラウザの必要条件	15
Web から FileMaker データベースへのアクセス	15
ファイルへのログイン	16
インスタント Web 公開でのデータの操作	17
ブラウズモードでのレコードの表示と変更	18
レコードの検索	18
Web ビューアを含むレコードの操作	19
データベースからのログアウトと Web セッションの終了	19
ステータスエリアが非表示の状態でのデータベースの表示	20
FileMaker Pro とインスタント Web 公開の違い	21
インスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスする利点	21
FileMaker Pro を使用してデータベースにアクセスする利点	21

<b>第4章</b>	
<b>インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン</b>	23
インスタント Web 公開用のレイアウトのデザインのヒント	23
インスタント Web 公開でのレイアウトのレンダリングのヒント	23
リスト形式および表形式のデザイン上の考慮事項	24
Web ブラウザでのデータの操作のヒント	24
データベースのデザインに関する一般的な考慮事項	25
Web 上でのグラフィック、サウンド、およびムービーの操作	26
初期レイアウトと表示形式の設定	26
ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ	26
Web ユーザに対するソート順の指定	27
Web ビューアのデザインに関する考慮事項	27
スクリプトとインスタント Web 公開	28
スクリプトステップのヒントと考慮事項	28
スクリプトステップ	30
データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成	31
FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要	31
ソリューションのドキュメントの作成	32
<b>第5章</b>	
<b>サイトのテスト、監視、および保護</b>	33
ネットワークに接続した状態でのデータベースのテスト	33
ネットワークに接続しない状態でのデータベースのテスト	33
ログファイルでの Web アクティビティの監視	33
データの保護	34
<b>索引</b>	37

# 第 1 章

## Web 上での FileMaker Pro データベースの公開について

FileMaker® Pro では、さまざまな方法で Web 上でデータベースを表示することができます。これによって、次のようにデータを利用することができます。

- 世界中のどこからでも、互換性のある Web ブラウザを使用して多くのユーザがデータを利用する（ただし、ファイルへのアクセスは制限することができます）。
- 出張先やリモートでの作業中など、さまざまな場所からデータにアクセスする。

FileMaker Pro を使用してデータを公開するには、次の 3 つの方法があります。

**インスタント Web 公開:** インスタント Web 公開を使うと、データベースをすばやく簡単に Web 上で公開することができます。互換性のある Web ブラウザソフトウェアを所有し、インターネットまたはイントラネットにアクセス可能なユーザは、データベースファイルを変更したり、他のソフトウェアをインストールしなくても、Web 上で公開されたデータベースの表示、編集、ソート、および検索を行うことができます。ただし、その場合にはこれらの操作を行うためのアクセス権が必要となります。他のソフトウェアを使用すると、ファイアウォールを設定してネットワークを保護するなど、他のタスクを実行することができます。

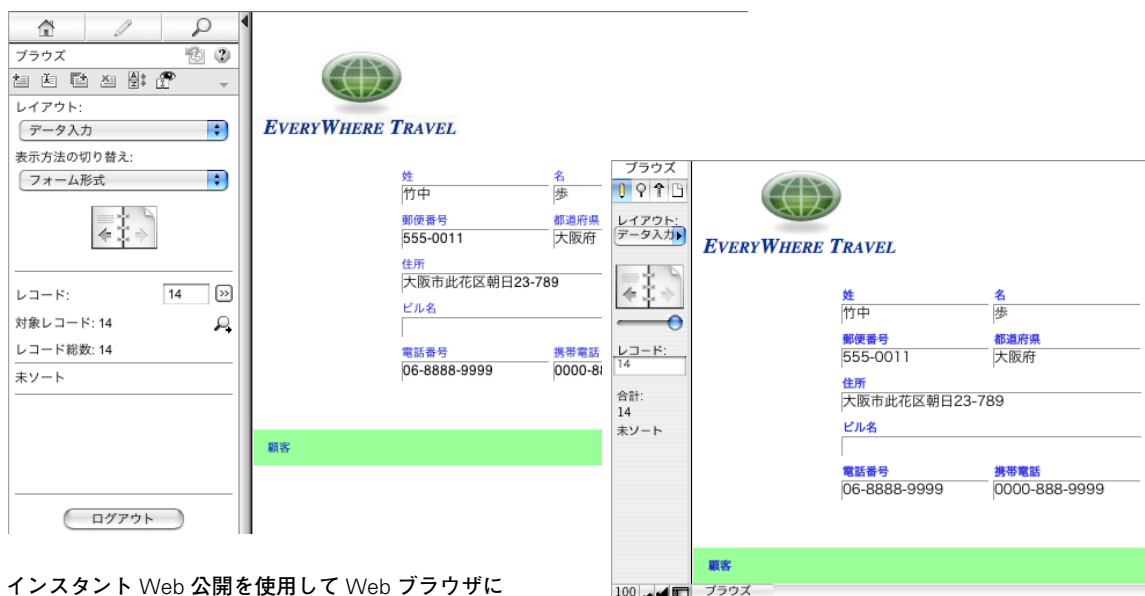
**静的な公開:** データがあまり変更されない場合、または稼働中のデータベースにユーザが接続しないようにする場合には、静的な公開方法を使用します。静的な公開方法では、FileMaker Pro のデータをエクスポートして Web ページを作成します。Web ページは、HTML を使用してさらにカスタマイズすることができます。データベースの内容を変更しても、Web ページのデータは変更されません。ユーザは、Web サイトに接続してもデータベースには直接接続しません。（インスタント Web 公開では、Web ブラウザが FileMaker Pro に情報更新の要求を行うたびに、Web ブラウザのウィンドウに表示されているデータが更新されます）。詳細については、13 ページの「静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開」を参照してください。

**カスタム Web 公開:** 公開するデータベースの表示方法と機能をさらに拡張する場合は、FileMaker Server ソフトウェアに含まれるカスタム Web 公開技術を利用してカスタム Web を作成してください。XML、XSLT および PHP を使用すると、以下が可能になります。

- データベースを他の Web サイトに統合する
- ユーザによるデータの操作方法を決定する
- Web ブラウザでのデータの表示方法を制御する

詳細については『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』、および『FileMaker Server カスタム Web 公開 with PHP』を参照してください。

**重要** Web 上でデータを公開する場合は、セキュリティがさらに重要になります。『FileMaker Pro ユーザーズガイド』のセキュリティガイドラインを参照してください。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ

FileMaker Pro レイアウトに表示されるデータ

## このガイドについて

このガイドでは、FileMaker Pro におけるインスタント Web 公開および静的な Web 公開方法の機能について説明します。このガイドで説明する内容は、次のとおりです。

- Web 上でデータベースを公開するための必要条件
- FileMaker インスタント Web 公開を使用してデータベースを公開する方法
- データベースにアクセスするための Web ユーザの必要条件
- インターネットまたはイントラネット上のデータベースにアクセスして操作する方法

FileMaker Pro のドキュメントでは、Web ブラウザを使用してインターネットまたはイントラネット上でアクセスできるデータベースのことを指す場合に Web 上での公開という言葉を使用します。

このガイドでは、FileMaker Pro Advanced の特定の機能を説明する場合以外は、「FileMaker Pro」を、FileMakerPro と FileMaker Pro Advanced の両方を指すものとして使用しています。

**重要** FileMaker に関するドキュメントについては、[www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) を参照してください。

## インスタント Web 公開の条件

インスタント Web 公開を使用してデータベースを公開するには、以下の条件が必要です。

- FileMaker Pro または FileMaker Server Advanced を実行している Windows ベースまたは Mac OS ベースのコンピュータで、インスタント Web 公開が有効な環境
- インターネットまたはイントラネットへのアクセス
- 1 つ以上の FileMaker Pro データベース
- FileMaker Pro Web 公開コンポーネント ([すべて] を選択してインストールすると自動的にインストールされます)
- データベース アクセスをテストするための Web ブラウザ (15 ページの「Web ブラウザの必要条件」を参照)

**重要** FileMaker Server または FileMaker Server Advanced が実行されているコンピュータでは、FileMaker Pro のインスタント Web 公開を有効にすることはできません。

## インターネットまたはイントラネットへの接続

インターネットまたはイントラネット上でデータベースを公開する場合、ホストコンピュータで FileMaker Pro または FileMaker Server Advanced を起動し、共有するデータベースを開いておく必要があります。また、次の点にも注意してください。

- データベースを公開する場合には、TCP/IP を使用して常時インターネットまたはイントラネットに接続しているコンピュータを使用することを強くお勧めします。インターネットに常時接続していなくても Web 上でデータベースを公開することは可能ですが、Web ユーザはホストするコンピュータがインターネットまたはイントラネットに接続している場合にのみデータベースにアクセスすることができます。
- ホストコンピュータは、静的、つまり固有な専用の IP アドレスまたはドメイン名を使用する必要があります。インターネットサービスプロバイダ (ISP) に接続してインターネットを使用する場合、IP アドレスは動的に割り当てられる可能性があります。つまり、接続するたびに IP アドレスが変更されることになります。動的な IP アドレスを使用すると、Web ユーザがデータベースを見つけることが困難になります。使用できるインターネットへのアクセスの種類がわからない場合は、ISP またはネットワーク管理者にお問い合わせください。

## FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて

FileMaker Pro インスタント Web 公開は、小規模のワークグループでデータを共有したり、ネットワーク上でユーザ個人のデータにアクセスすることを目的としてデザインされています。FileMaker Pro を使用してホストした場合、インスタント Web 公開では、最大 5 人の Web ユーザが同時にファイルを共有することができます。

**注意** 6 人以上の Web ユーザでファイルを共有するためにインスタント Web 公開を使用する場合は、FileMaker Server Advanced を使用する必要があります。

## FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホストについて

FileMaker Server Advanced を使用してデータベースをホストすると、より多くの Web ユーザと同時に情報を共有することができます。Web 上で公開するファイルを FileMaker Server Advanced でホストすると、その他にも次のような利点があります。

- 長時間実行されるアプリケーションに対するサポートの向上
- スケジュール処理 (バックアップやリモート管理など) のサポートによるメンテナンスの軽減
- より多くのファイルの同時ホストのサポート
- SSL 暗号化によるセキュリティの向上

一般情報については、31 ページの「FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要」を参照してください。詳細については、『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』、『FileMaker Server カスタム Web 公開 with PHP』および『FileMaker Server ヘルプ』を参照してください。

## Web 公開における改善点

Web ビューアはインスタント Web 公開で動作します。これらのオブジェクトはフィールドデータに基づいて URL を計算し、FileMaker Pro レイアウトに Web ページを直接表示できます。Web ビューアの詳細については、[www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) を参照してください。

FileMaker Pro および FileMaker Pro Advanced の新機能については、『インストールおよび新機能ガイド for FileMaker Pro and FileMaker Pro Advanced』を参照してください。

## 旧バージョンの FileMaker Pro のファイルの公開

### FileMaker Pro 7 および FileMaker Pro 8 のファイルの公開

FileMaker Pro 7、8、8.5、および9では同じファイル形式を使用するため、FileMaker Pro 9では、FileMaker Pro 7 および8のファイルを変換せずに開くことができます。FileMaker Pro 9のファイル FileMaker Pro 7 および8で使用することもできます。ただし、レイアウトに新しい機能が含まれているときに旧バージョンでファイルを開いた場合、このレイアウトは、インスタント Web 公開ではサポートされません。

FileMaker Pro 9でファイルを作成したり、開いたりした後は、旧バージョンの FileMaker Pro を使用してデータベースの設計やレイアウト（特に FileMaker Pro 9で変更された機能）を変更しないことをお勧めします。

### ファイルメーカー Pro 6 以前のファイルの公開

ファイルメーカー Pro 6 以前のバージョンから新しいファイル形式にデータベースを変換する前に、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。このマニュアルの PDF ファイルは、[www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) から入手することができます。

インスタント Web 公開で共有されているファイルを変換する場合は、次の点を考慮してください。

- Web 表示用に選択できるレイアウトの制限がなくなりました。つまり、Web ユーザは、ユーザアカウントに基づいてすべてのレイアウトを利用することができます。ファイルメーカー Pro 6 以前で提供されていた Web スタイルはサポートされなくなりました。ファイルの変換後に、各ユーザアカウントが Web 上で利用できるレイアウトを再評価してください。
- アクセス権モデルが改善されました。ユーザ名とパスワードを再度割り当てて、統合セキュリティモデルを活用することを検討してください。アカウントとアクセス権の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- Web に対するスクリプトのサポートが強化されています。
  - Web ユーザにアクセス権を設定して、特定の個々のスクリプトの実行は許可し、他のスクリプトの実行は防止することができます。
  - ScriptMaker™ のスクリプトステップが「Web 互換」として明確に示されるようになり、Web ユーザ専用のスクリプトを作成することができます。ファイルの変換後、Web ユーザが実行する可能性のある各スクリプトを開き、[Web 互換を区別して表示] チェックボックスを選択します。これにより、Web ブラウザから実行した場合に予期せぬ結果の原因となりうるステップがスクリプトに含まれているかどうかを確認することができます。
  - Web 上では、スクリプトは、常に [エラー処理] が有効な状態で実行されます。[エラー処理] が無効である（選択解除されている）ことを前提とするスクリプトでは、同じように機能しない可能性があります。変換後にファイルを十分にテストしてください。
- Web ユーザは、フォーム形式、リスト形式、および表形式のレイアウト表示形式を動的に切り替えてデータを操作することができます。[レイアウト設定] ダイアログボックスの [表示] で、特定の表示形式へのアクセスを制限することができます。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- FileMaker Pro クライアントではインスタント Web 公開を使用してデータベースをホストすることができなくなりました。ファイルはホストコンピュータ上で Web 公開する必要があります。
- 表形式において、レコードの範囲に開始点と終了点を指定することができなくなりました。代わりに、開始点と次の 50 レコード（または対象レコードの残りのうち、いずれか少ない方）が表示されるように指定することができます。
- Web 上で公開するファイルの URL 構文が変更されています。Web 上のデータベースにアクセスするためのリンクを手動で作成している場合は、ファイルの変換後にリンクを更新する必要があります。詳細については、12 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。
- Web セキュリティデータベースはサポートされなくなりました。Web ベースのセキュリティを確保するために Web セキュリティデータベースに依存している場合は、FileMaker Pro で、アカウント、パスワード、および関連するアクセス権を変換後のデータベースファイルに移動する必要があります。

## 第 2 章

# Web 上へのデータベースの公開

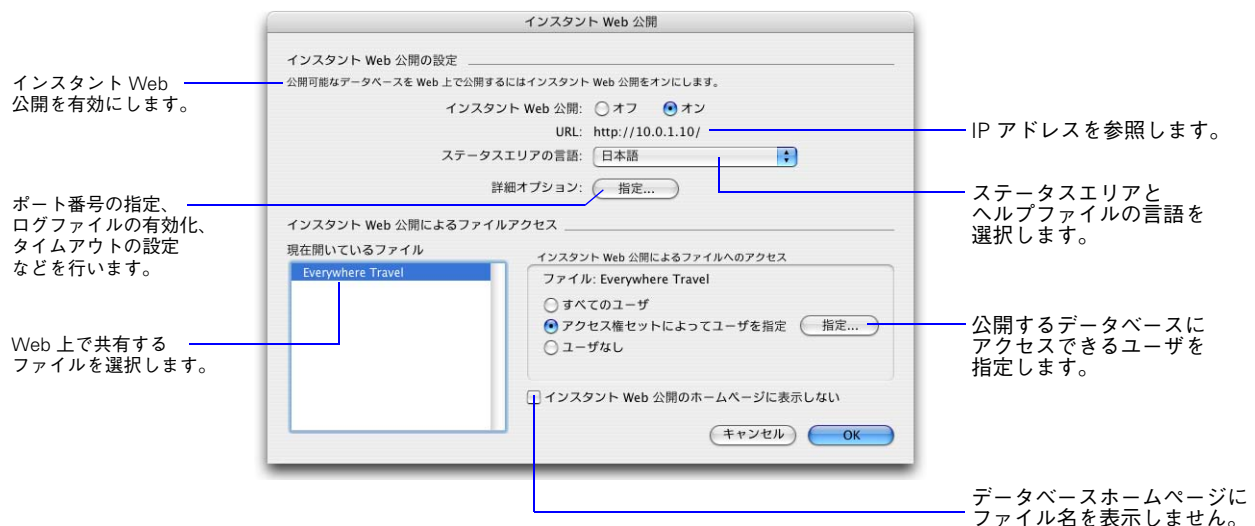
FileMaker Pro では、インスタント Web 公開を使用した動的な方法や、データを HTML または XML にエクスポートする静的な方法で、Web 上で簡単にデータベースを共有することができます。LAN または WAN に接続している場合は、追加のソフトウェアを使用することなくファイルを共有することができます。インターネット上でファイルを共有するには、データベースをホストする場合のインターネットアクセスと情報について、インターネットサービスプロバイダ (ISP) に問い合わせてください。

### インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有

FileMaker Pro を使用して Web 上でデータベースを公開するには、インスタント Web 公開機能を有効にし、Web ブラウザから各データベースにアクセスすることができるユーザアカウントを決定します。

インスタント Web を使用可能にするには、次の操作を行います。

1. データベースを開きます。
2. [ファイル] メニューの [共有設定] サブメニューから [インスタント Web 公開...] を選択して [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開き、インスタント Web 公開を有効にします。



FileMaker Pro の [インスタント Web 公開] ダイアログボックス

3. 開いているファイルの一覧から、Web 上で公開するファイル名を選択します。
4. ファイルにアクセスすることができるユーザを選択します。

#### 選択するオプション

すべてのユーザ

アクセス権セットによって  
ユーザを指定

ユーザなし

#### アクセス権が与えられるユーザ

データベースをホストするコンピュータの IP アドレスまたはドメイン名を知っているすべてのユーザ。

選択したユーザにデータベースへのアクセスを許可します。ユーザは、[アカウントとアクセス権の管理] で定義されたアカウント名とパスワードを入力する必要があります。

これはデフォルトの設定で、どのユーザもインスタント Web 公開でデータベースにアクセスすることはできません。

## 10 FileMaker インスタント Web 公開ガイド

- Web からファイルにアクセスする場合、FileMaker Pro の [ファイルオプション] ダイアログボックスの [次のアカウントを使用してログイン:<アカウント名>] 機能は動作しません。
  - ゲストアカウントが、インスタント Web 公開拡張アクセス権を持つ唯一のアカウントである場合を除き、Web ユーザがゲストアカウントで自動的にログインすることはありません。インスタント Web 公開に対してゲストアカウントを有効にする場合の詳細については、16 ページの「ファイルへのログイン」および FileMaker Pro のヘルプを参照してください。
  - ゲストが共有データベースにログオンしているときにインスタント Web 公開の設定に変更を加えると、ゲストはセッションから接続解除され、データベースホームページに戻ります。最適な結果を得るには、データベースが閉じている間に設定の変更を行ってから、FileMaker Pro を再起動します。
5. 公開する各データベースに対して、手順 3 と 4 を繰り返します。
6. [OK] をクリックするか、または他の設定を選択します。

**ヒント** ビルトインのインスタント Web 公開データベースホームページにファイル名を表示しないようにするには、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスの [インスタント Web 公開のホームページに表示しない] を選択します。これは、ソリューションに複数のファイルが含まれていて、一部のファイル名を表示しない場合に便利です。

次の点に注意してください。

- この章に記載している方法は、FileMaker Pro でデータベースをホストするための方法です。FileMaker Server Advanced でファイルをホストすると、より多くの Web ユーザとデータベースを共有したり、より多くのファイルを公開したりすることができます。詳細については、31 ページの「FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要」を参照してください。
- Mac OS X では、オペレーティングシステムのパスフレーズを入力するようプロンプトが表示される場合があります。詳細については、10 ページの「Web 公開時のポート番号の指定」を参照してください。
- [インスタント Web 公開] ダイアログボックスでファイルへのアクセスを割り当てると、関連するユーザのアクセス権セットの拡張アクセス権設定が変更されます。拡張アクセス権の設定は、[アカウントとアクセス権の管理] ダイアログボックスで直接確認および変更することができます。[アカウントとアクセス権] でのアクセス権の設定と変更の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- インスタント Web 公開を有効にせずに、各ファイルにアクセスできるユーザを指定することができます。
- 開いているファイルとファイルアクセスオプションの一覧が表示される [インスタント Web 公開] ダイアログボックスでは、完全アクセス権がない場合、またはファイルの拡張アクセス権を管理するためのアクセス権がない場合はグレー表示されます。

### インスタント Web の言語の選択

インスタント Web 公開のインターフェース、ポップアップヘルプ、およびオンラインヘルプで使用する言語を選択することができます。言語を選択または変更しても、実際のデータに影響はありません。

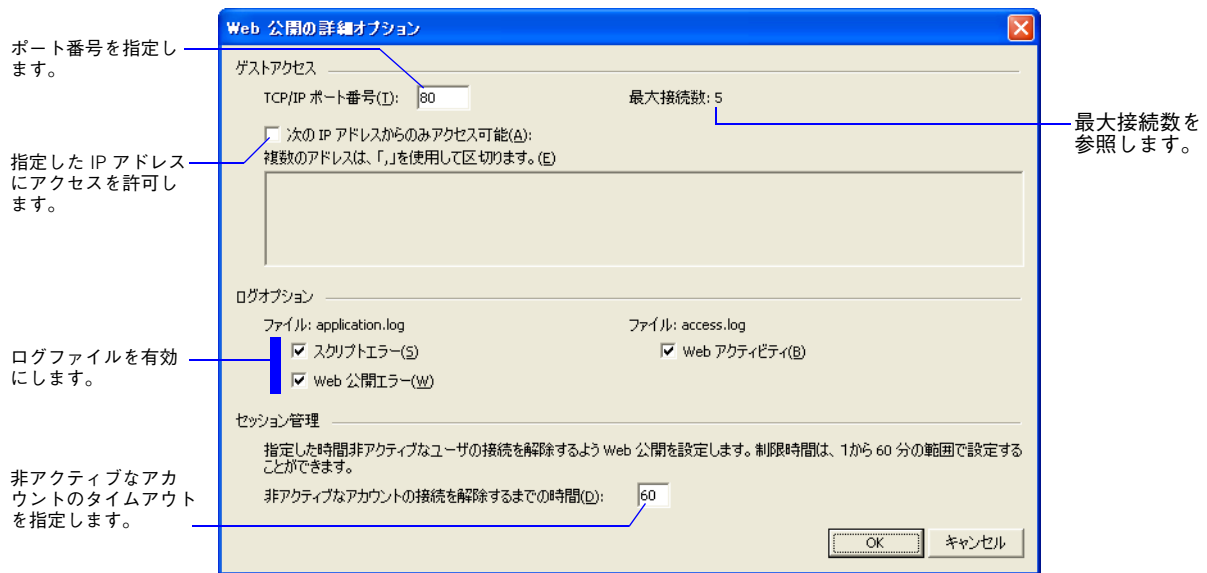
言語を指定するには、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開き、ステータスエリアに表示する言語を選択して、[OK] をクリックします。

### Web 公開時のポート番号の指定

[インスタント Web 公開] ダイアログボックスで TCP/IP アドレスを指定することにより、Web ブラウザはホストコンピュータ上の FileMaker Pro データベースの場所を判断することができます。デフォルトでは、FileMaker のファイルはポート 80 から共有されます。他の Web サーバーや他のアプリケーションによってポート番号 80 がすでに使用されている場合は、[TCP/IP ポート番号:] を 591 に変更することをお勧めします。ポート番号 591 は、FileMaker Web 公開専用として IANA (Internet Assigned Numbers Authority) に登録されています。

ポート番号を指定または変更するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます (9 ページの「インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有」を参照)。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックして、目的の TCP/IP ポート番号を入力します。
3. [OK] をクリックします。続いて、[OK] をクリックして変更を保存します。



[Web 公開の詳細オプション] ダイアログボックス

**重要** 80以外のポート番号を使う場合は、IP アドレス（またはドメイン名）の後にコロンを入力し、使用するポート番号を入力するとアクセスすることができます。たとえば、Web ブラウザに「12.34.56.78:591」または「http://accounts.yourcompany.com:591」のように指定します。または、IP アドレスとポート番号が含まれるリンクからデータベースへのアクセスを提供することができます。詳細については、12 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。

### Mac OS X でのポート番号の変更

Mac OS X では、インスタント Web 公開を初めて有効にすると、1024 未満のポート番号で Web 上に公開できるようにコンピュータの設定を一時的に変更する許可を求められます。Mac OS X では、セキュリティ上の理由から 1024 未満のポートへのアクセスは制限されています。1024 未満のポートを使用するように FileMaker Pro を設定するには、Mac OS X のインストール時に作成したパスフレーズなどの管理者パスワードを入力する必要があります。1024 から 65535 の範囲のポート番号を使用する場合は、管理者パスワードは必要ありません。管理者権限を使用したアカウントの作成の詳細については、Mac OS X のヘルプを参照してください。

### Web 接続の最大数の確認

ファイルに同時にアクセスできる Web ユーザの数は、データベースをホストするアプリケーションによって異なります。FileMaker Pro では、最大 5 人の Web ユーザを同時にホストすることができます。より多くの Web ユーザとファイルを共有するには、FileMaker Server Advanced を使用してください。

許可されている Web 接続の最大数を参照するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます（9 ページの「インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有」を参照）。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックして、[最大接続数] を参照します。
3. [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。

最大数に達した場合、それ以上の Web ユーザがデータベースにアクセスしようとする時、Web ブラウザにエラーメッセージが表示されます。

**重要** ユーザの最大数に達している理由が不明な場合は、Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしていない可能性があります。セッションがタイムアウトするまで待つか、またはデータベースから Web ユーザを接続解除することができます。詳細については、19 ページの「データベースからのログアウトと Web セッションの終了」を参照してください。

## 指定した IP アドレス以外のアクセスの制限

Web 上でデータベースにアクセスできる IP アドレスを制限することができます。たとえば、12.34.5.6 という IP アドレスの Web ユーザにのみデータベースへのアクセスを許可するように設定することができます。

データベースにアクセスすることができる IP アドレスを指定するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます (9 ページの「インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有」を参照)。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックします。
3. [次の IP アドレスからのみアクセス可能:] を選択して、ファイルにアクセスすることができる IP アドレスを入力します。複数の IP アドレスはコンマ (,) で区切ります。
4. [OK] をクリックします。続いて [OK] をクリックして変更を保存します。

**注意** IP アドレスが類似している複数の Web ユーザにアクセスを許可するには、12.34.5.\* や、12.\* のように、IP アドレスのセクションにアスタリスク (\*) を入力します。ただし、最初のセクションにアスタリスクを入力することはできません。

## 非アクティブな Web アカウントの接続解除

Web ユーザのセッション (Web サーバーとの接続) がアイドル状態の場合に Web ユーザがデータベースとの接続を維持する時間を指定することができます。Web ユーザが Web ブラウザからリクエストの送信 (検索、作成、変更の送信、レイアウトの変更など) を行わない場合、セッションはアイドル状態と見なされます。また、Web ユーザが Web ブラウザのウィンドウを閉じた場合、別の Web サイトに移動した場合、または [ログアウト] ボタンをクリックせずに Web ブラウザを終了した場合も、セッションはアイドル状態になります。

セッションがタイムアウトするまでアイドル状態を維持できる間隔を指定するには、次の操作を行います。

1. [インスタント Web 公開] ダイアログボックスを開きます (9 ページの「インスタント Web 公開を使用したデータベースの共有」を参照)。
2. [詳細オプション:] で [指定...] をクリックします。
3. [非アクティブなアカウントの接続を解除するまでの時間:] で、アイドル状態の Web ユーザを接続解除するまでの時間 (1分から60分) を指定し、[OK] をクリックして変更を保存します。

Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない可能性がある場合は、短いセッションタイムアウトを指定します。Web ユーザを自動的にログオフさせるスクリプトボタンを作成することもできます。

詳細については、31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」および 19 ページの「データベースからのログアウトと Web セッションの終了」を参照してください。

## HTML ページからデータベースへのリンク

Web ユーザが IP アドレスまたはドメイン名を入力してデータベースにアクセスする代わりに、データベースへのリンクが指定された HTML ページを作成することができます。

表示するページ	使用するリンク
データベースホームページまたは作成したホームページの場合	データベースが FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced でホストされている場合 <code>http://&lt;IP アドレス&gt;:&lt;ポート番号&gt;</code> データベースが FileMaker Server Advanced でホストされている場合 <code>http://&lt;IP アドレス&gt;:&lt;ポート番号&gt;/fmi/iwp/</code>
特定のデータベース	<code>http://&lt;IP アドレス&gt;:&lt;ポート番号&gt;/fmi/iwp/cgi?-db=&lt;データベース名&gt;&amp;-loadframes</code>

次の点に注意してください。

- ファイルを頻繁に閉じたり、Web ユーザが多くのデータベースにアクセスする場合は、データベースホームページにリンクすることを検討してください。データベースホームページでは、開かれていて、インスタント Web 公開で共有されているすべてのデータベースのリンクが動的に作成されます。データベースホームページの詳細については、15 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。
- 提供したリンクをクリックすると、データベースにアクセスして、デフォルトのレイアウトを表示することができます。他の機能が必要な場合は、必要なタスクを自動化する起動スクリプトをデータベースに含めることを検討してください。
- 可能であれば、静的な IP アドレス上でデータベースをホストするか、またはドメイン名を使用してください。一部の環境では、コンピュータがネットワークに再接続するたびに、新しい IP アドレスが動的に割り当てられます。
- 特定のデータベースにリンクするための URL 構文は、ファイルメーカー Pro 6 以前とは異なるため、ファイルを変換した後にリンクを更新する必要があります。
- FileMaker Pro でファイルをホストする場合は、静的な HTML ページと、ページで使用するイメージを、FileMaker Pro フォルダ内にある「Web」フォルダに保存することができます。

## カスタムホームページの使用

デフォルトのデータベースホームページを置換するには、「iwp\_home.html」という名前の HTML ファイルを FileMaker Pro フォルダ内の Web フォルダに配置します。Web ユーザがセッションからログアウトするか、セッションがタイムアウトすると、ユーザはこのページに戻ります。

**注意** FileMaker Server Advanced を使用してデータベースをホストしている場合には、FileMaker Server がインストールされている「Web Publishing/IWP」フォルダ (Windows)、または「/ライブラリ/FileMaker Server/Web Publishing/IWP」フォルダ (Mac OS) にカスタムホームページを配置します。

製品 CD に格納されている「iwp\_home.html」ファイルをカスタムホームページのベースとして使用することができます。ファイルに変更を加える前に、元のファイルをコピーしておいてください。また、Web ユーザを同じ Web サイトの別のページにリダイレクトするような独自のホームページを作成することもできます。

Web フォルダ (FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced) または iwp フォルダ (FileMaker Server Advanced) に「iwp\_home.html」ファイルが存在しない場合、インスタント Web 公開ではデフォルトのデータベースホームページが使用されます。

ユーザがスクリプトによってログアウトしたり、セッションがタイムアウトした場合に、カスタムホームページがインスタント Web 公開のレイアウトフレームに読み込まれないようにするには、「iwp\_home.html」ファイルのヘッダセクションに次の JavaScript を追加する必要があります。

```
if (window != window.top) top.location = "/fmi/iwp/cgi?-home";
```

top.location には、ホームページの URL を指定することも他の任意の URL を指定することもできます。

## 静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開

インスタント Web 公開では、Web ブラウザが FileMaker Pro にデータを要求するたびに、Web ブラウザのウインドウに表示されているデータが更新されます。これを動的な公開と呼びます。静的な公開では、FileMaker から公開するデータが、新しいリクエストのたびに更新されることはありません。

次の場合は、静的な公開をお勧めします。

- データが頻繁に変更されない場合
- インターネットに常時接続していない場合
- ユーザがデータベースに直接接続しない場合

静的データ公開には以下が必要です。

- Web サーバー上でホストされている Web サイト（インスタント Web 公開を有効にして、FileMaker Pro の「Web」フォルダ内にある項目の Web サーバーとして FileMaker Pro を使用することができます）
- FileMaker Pro、およびデータが含まれる 1 つまたは複数のデータベース
- インターネットまたはイントラネットに接続されているコンピュータ（Web ページを Web サーバーにアップロードする場合にのみ接続する必要があります）
- Web サーバアプリケーションへファイルをコピー（またはアップロード）するためのアプリケーション
- テキスト編集アプリケーションまたは Web オーサリングアプリケーション（オプション）

### 静的なデータの一般的な公開手順

静的な公開では、データを Web ページにエクスポートし、エクスポートした Web ページを既存の Web サイトに追加します。Web ユーザは、データベースではなく Web サイトに接続します。

FileMaker Pro から静的なデータを公開するには、次の操作を行います。

1. 適切なレコードを検索して、[ファイル]メニューの[レコードのエクスポート...]を選択し、[HTML 表形式]または[XML]を選択します。
  - [HTML 表形式]は、サポートされている Web ブラウザで表示できるデータの表を生成する場合に選択します。テキスト編集アプリケーションまたは Web オーサリングアプリケーションを使用して、表の外観をカスタマイズすることができます。
  - [XML]は、XSLT スタイルシートを使用してテーブルを変換する場合に選択します。
2. 既存の Web ページから新しい Web ページへのリンクを追加します。
3. 新しい Web ページを Web サーバーにコピーします。

静的な Web ページでは、保護のために FileMaker Pro のアクセス権を使用することはできませんが、ファイルを FileMaker Pro の「Web」フォルダに保存して、ファイルにアクセス可能な IP アドレスを [インスタント Web 公開] ダイアログボックスで指定することによって、アクセスを制限することができます。詳細については、12 ページの「指定した IP アドレス以外のアクセスの制限」を参照してください。他のセキュリティオプションについては、Web サーバーのマニュアルを参照するか、あるいは ISP またはネットワーク管理者に確認してください。

レコードを HTML または XML としてエクスポートする方法の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。XML の一般情報とサンプルファイルについては、[www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) にアクセスしてください。

# 第 3 章

## Web 上での FileMaker データベースの操作

FileMaker Pro インスタント Web 公開では、データベースを操作するための Web ページとインターフェースは自動的に提供されます。レコードをブラウズ、検索、ソート、追加、編集、および削除するには、ステータスエリアのボタンをクリックします。

インスタント Web 公開を有効にしてファイルを共有する場合、データベースのアカウントを持っていて、データベースがホストされている IP アドレスまたはドメイン名を知っている任意のユーザがファイルにアクセスすることができます。アカウントのアクセス権に応じて、次の操作を行うことができます。

- 異なるレイアウトや表示形式でレコードを表示する
- レコードを追加、複製、および削除する
- フィールドのデータを追加および編集する
- データベースを検索してレコードのサブセットを表示する
- データベースをソートしてレコードを並べ替える

**重要** デスクトップと Web の両方に対してデータベース機能へのユーザアクセスを制限するには、アカウントおよびアクセス権セットを管理します。

### Web ブラウザの必要条件

公開されている FileMaker Pro データベースを使用するには、以下が必要です。

- Web ブラウザ

**Windows Vista、Windows XP、Windows 2003、  
または Windows 2000 の場合**

**Mac OS X の場合**

Internet Explorer 6.0 および 7.0

Safari 1.2、1.3 (Mac OS X 10.3)、Safari 2.0 (Mac OS X 10.4)

Firefox 2.0

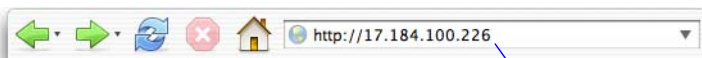
Firefox 2.0

**注意** これらの必要条件は、データベースをホストする FileMaker 製品の必要条件とは異なる場合があります。

- インターネットまたはイントラネットへのアクセス。
- データベースファイルをホストするコンピュータの IP (Internet Protocol) アドレスまたはドメイン名。
- JavaScript が Web ブラウザで使用可能になっている必要があります。

### Web から FileMaker データベースへのアクセス

データベースホームページにアクセスするには、Web ブラウザを開いて、ホストコンピュータの IP アドレスを入力します。



IP アドレスまたはドメイン名を  
ブラウザのウィンドウに入力します。

- 場合によっては、IP アドレスの代わりに、“http://accounts.yourcompany.com” のような使用するコンピュータのドメインおよびホスト名、または、“http://yourcompany.com” のようなホスト名を入力することも可能です。IP アドレスへのドメインおよびホスト名のマッピングの詳細については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

- FileMaker Pro で、デフォルト（初期設定）である 80 以外のポート番号を使用するように設定する場合は、そのポート番号を IP アドレスの後に追加する必要があります。たとえば、“10.0.0.1:88” のように入力します。<sup>1</sup> を参照してください。
- Web 上で公開するデータベースへのリンクが含まれる HTML ページを作成することもできます。詳細については、12 ページの「HTML ページからデータベースへのリンク」を参照してください。

データベースホームページには、ホストコンピュータで開かれていて、Web 上で共有できるように設定された FileMaker Pro データベースが表示されます。

開いている共有データベースの一覧が表示されない場合には、次の手順を行います。

- ファイル名を確認します。 ファイル名は固有である必要があり、シングルクォーテーションもダブルクォーテーションも含まれていないことが必要です。
- [インスタント Web 公開] ダイアログボックスの [インスタント Web 公開のホームページに表示しない] チェックボックスの選択が解除されていることを確認します。

開くデータベースのファイル名をクリックします。



データベースホームページに表示されたインスタント Web 公開で共有されているファイル

## ファイルへのログイン

データベースを開くときに、アカウント情報を入力するようメッセージが表示される場合があります。

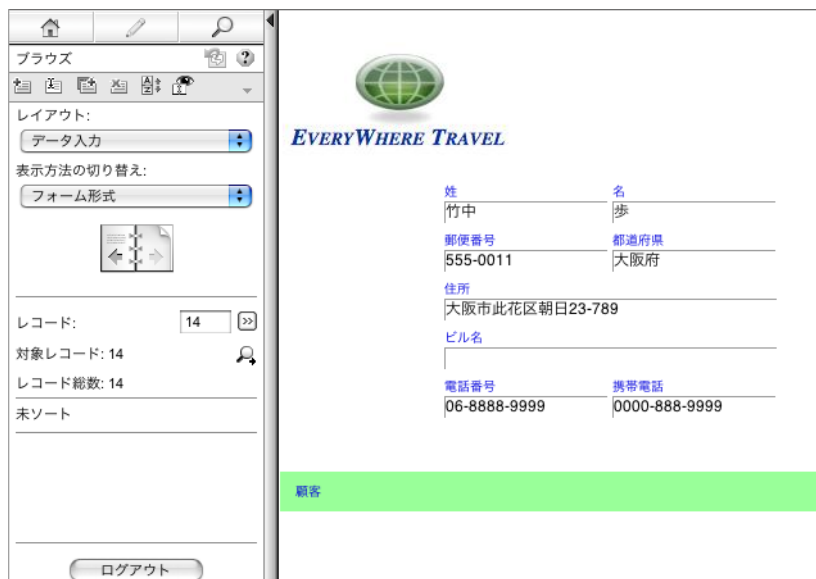


フォームベースのログインページ

- ゲストアカウントのインスタント Web 公開拡張アクセス権が有効である場合、Web ユーザは、アカウント名およびパスワードを使用してログインする代わりにゲストアカウントでログインすることができます。
- ゲストアカウントが、インスタント Web 公開拡張アクセス権が有効にしてある唯一のアカウントである場合、Web ユーザは、ゲストアカウントで自動ログインし、ログインページは表示されません。
- ゲストアカウントのデフォルトのアクセス権セットは、「閲覧のみ」アクセスを提供します。デフォルトのアクセス権は、[アカウントとアクセス権の管理] ダイアログボックスの [アカウント] タブで変更することができます。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- 一般的には、Web ユーザが Web ブラウザからアカウントのパスワードを変更することはできません。ただし、ユーザが変更可能な、あらかじめ設定されたパスワードを指定するために、[パスワード変更] スクリプトステップを使用することができます。
- [再ログイン] スクリプトステップを使用すると、ユーザは Web ブラウザからログインアカウントを変更することができます。たとえば、ゲストアカウントから、より多くの機能を使用できる別のアカウントに切り替えることができます。
- 基本認証からフォームベースの認証方式に切り替えられたため、アカウント名およびパスワードに ISO-Latin-1 文字セット以外の文字を使用することができます。
- FileMaker Server Advanced では、ホストされているデータベースが一覧表示されるデータベースホームページで、各 Web ユーザがアクセスできるデータベースのみを制限して表示することができます。このオプションが選択されている場合は、Web ユーザがデータベースホームページを表示する前に、アカウント情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

## インスタント Web 公開でのデータの操作

FileMaker のインスタント Web 公開のステータスエリアは、デスクトップアプリケーションと同様な設計になっています。Web ユーザは、ブラウズモードまたは検索モードで、Web 上でデータベースを操作します。レコードの入力、編集、削除、検索など、Web ユーザによるデータベースの操作を可能にするすべての機能には、ステータスエリアからアクセスすることができます。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ

## ブラウズモードでのレコードの表示と変更

ブラウズモードでは、Web ユーザは、ステータスエリアのアイコンをクリックしてタスクを実行します。アカウント名およびアクセス権によってアクセスが提供されている場合は、次の操作を実行することができます。

- レコードの作成
- レコードの編集
- レコードの複製
- レコードの削除
- 対象レコードのソート（現在のレイアウトのフィールドに基づく）
- 全レコードの表示
- 対象レコードからの現在のレコードの除外
- 対象レコードからの複数の連続するレコードの除外
- 除外レコードの表示（および既存の対象レコードの非表示）

アイコンの説明を参照するには、そのアイコン上にカーソルを置きます。手順の概要については、インスタント Web 公開ヘルプを参照してください。ヘルプファイルを表示するには、ステータスエリアの疑問符 (?) をクリックします。

**重要** レコードのデータを入力または編集した場合、Web ユーザは、ステータスエリアの [送信] ボタンをクリックしてホストにレコードを保存する必要があります。

データベースホームページ、ブラウズモード、または検索モードに移動します。

レコードの追加、編集、削除、ソート、または除外、あるいは除外レコードの表示を行います。

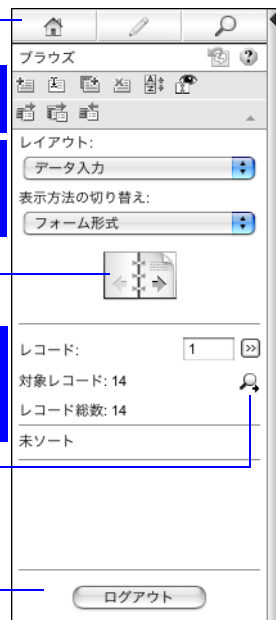
レイアウトおよびレイアウトの表示形式を変更します。

前または次のレコードを表示します。

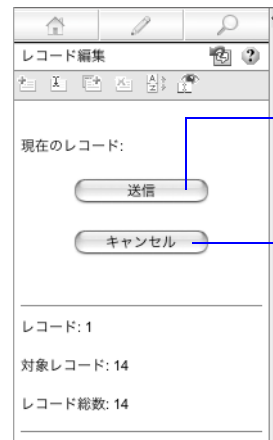
現在の対象レコードのステータス

最後の検索条件を変更します。

ログアウトし、ウィンドウを閉じてデータを保護します。



ブラウズモードでのステータスエリア



新しいデータまたは変更されたデータをホストに保存します。

変更をすべて破棄してブラウズモードに戻ります。

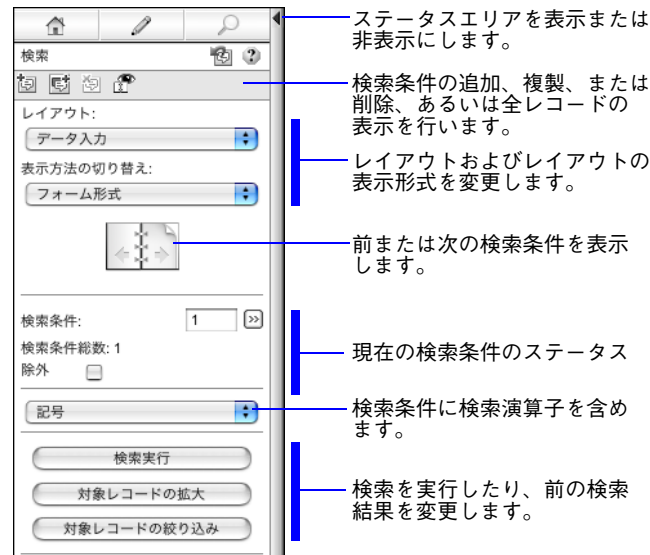
レコード編集時のステータスエリア

## レコードの検索

検索モードでは、Web ユーザは、FileMaker Pro デスクトップユーザと同じ検索機能を使用することができます。次の操作を実行することができます。

- 検索条件の作成
- 検索条件の複製
- 検索条件の削除

- 全レコードの表示
- 対象レコードの拡大（拡張）または絞り込み（抑制）



検索モードでのステータスエリア

手順の概要については、インスタント Web 公開ヘルプを参照してください。ヘルプファイルを表示するには、ステータスエリアの疑問符 (?) をクリックします。

**注意** Web ユーザは、検索条件を入力または編集した後に、ステータスエリアの [検索実行] ボタンをクリックして、リクエストをホストに送信する必要があります。

Web ユーザは、ステータスエリアの表示、非表示を切り替えることができます。ユーザインターフェースを完全に制御するには、起動スクリプトを作成して、ステータスエリアを非表示にすることができます。詳細については、26 ページの「ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ」を参照してください。

## Web ビューアを含むレコードの操作

FileMaker デスクトップユーザと同様に、Web ユーザは Web ビューアで次のようなインタラクションが可能です。

- 現在のレコードに関連する Web ページの内容を閲覧する (PDF 文書や QuickTime ムービーなど Web ブラウザプラグインを必要とする内容も含む)。
- リンクをクリックして Web サイトに移動する。
- Web ビューア内でショートカットメニューを使用して、Web ページ間の移動やテキストのコピーなどの操作を行う。

**注意** インスタント Web 公開で Web ビューア内を前後に移動するには、ショートカットメニューを使用します。Web ブラウザ内で右クリック (Windows) するか、または control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、[戻る] または [進む] を選択します。レイアウトに Web ビューアが 2 つ以上ある場合、あるページから別のページへと最後に変更を行った Web ブラウザにのみショートカットメニューを使用できます。これは必ずしも現在マウスカーソルを置いている Web ビューアとは限りません。

## データベースからのログアウトと Web セッションの終了

**重要** データベースの操作を終了したら、ステータスエリアの [ログアウト] ボタンをクリックして、Web ブラウザアプリケーションを終了してください。ログアウトする前にブラウザウィンドウを閉じたり、ブラウザアプリケーションを終了した場合、セッションはまだ開いています。これによって、次の状況が発生します。

- 他のユーザがデータにアクセスすることができなくなる
- 指定されたタイムアウトになるまではデータがハッカーによる攻撃を受けやすい

この場合、セッションがタイムアウトになるまで待つか、またはホストマシン上でファイルを閉じることができます。ホストマシン上でファイルを閉じた場合は、すべての Web ユーザの接続が解除されます。Web ユーザにセッションからのログアウトを要求するメッセージを送信する方法はありません。

Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない可能性がある場合は、短い時間のセッションタイムアウトを指定します。これによって、Web ユーザがデータベースから適切にログアウトしない場合の問題が最小限に抑えられます。詳細については、12 ページの「非アクティブな Web アカウントの接続解除」を参照してください。Web ユーザを安全にログオフさせるスクリプトボタンを作成することもできます。31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。

セキュリティに不安がある場合は、FileMaker Server でファイルをホストし、Web ブラウザの SSL 暗号化を有効にすることを検討してください。詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』または『FileMaker Server ヘルプ』を参照してください。

## ステータスエリアが非表示の状態でのデータベースの表示

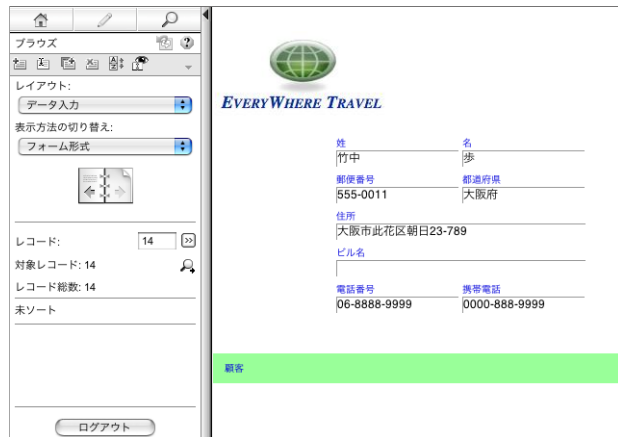
デスクトップバージョンの FileMaker Pro と同様に、データベースが Web ブラウザで開かれたときにステータスエリアを非表示にしてロックするスクリプトを作成することができます。これによって、カスタムインターフェースをデザインすることができます。

次の点に注意してください。

- ステータスエリアをロックする場合は、必要なすべての機能をユーザに提供するスクリプトおよびボタンを手動で作成する必要があります。たとえば、ユーザが、新規レコードの作成、データを編集するための編集モードへの切り替え、レコードの削除、レイアウトの変更などを行うことができるように、ボタンを作成する必要があります。データベースファイルを入念にテストして、重要なすべての機能へのアクセスが Web ユーザに提供されていることを確認することが非常に重要です。
- データを適切に保護するには、Web ユーザをデータベースからログアウトさせてセッションを終了するスクリプトを作成する必要があります。詳細については、31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。
- インスタント Web 公開のヘルプファイルに記載されている指示のほとんどは適切ではなくなるため、ユーザがカスタム環境からデータを操作するのを支援するために、ドキュメントを用意することをお勧めします。

## FileMaker Pro とインスタント Web 公開の違い

インスタント Web 公開の操作感は、FileMaker Pro デスクトップアプリケーションを使用する場合と非常によく似ています。Web ユーザは、検索モードと編集モードの切り替え、レイアウトや表示形式の選択など、多くの操作を実行することができます。



インスタント Web 公開を使用して Web ブラウザに表示した FileMaker レイアウトのデータ



FileMaker Pro レイアウトに表示されるデータ

## インスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスする利点

FileMaker Pro のインスタント Web 公開機能には、次のような独自の利点があります。

- 既存のデータベースを使用して、Web 上にすばやく簡単にソリューションを展開することができます。互換性のある Web ブラウザを使用して任意のユーザとデータを共有するために、Web オーサリングツールを使用したり、HTML や CSS のコードを作成したり、他の技術を使用する必要はありません。
- ホームオフィスや出張先を問わず、リモートでデータにアクセスすることができます。
- ステータスエリアを非表示にしてロックすることにより、Web ベースのカスタムアプリケーションを簡単に展開することができます。

## FileMaker Pro を使用してデータベースにアクセスする利点

Web からのデータベースへのアクセスは、FileMaker Pro を使用した場合とよく似ていますが、FileMaker Pro ネットワーククライアントからデータベースにアクセスしたときほど高速に応答しません。

- Web 上ではカスタマイズ機能を利用できません。Web ユーザはレイアウトおよび異なるレイアウト表示形式を選択することができますが、フィールド、レイアウト、スクリプト、リレーションシップなどを追加、削除、または変更することはできません。
- Web ユーザはハードドライブを直接操作することはできません。そのため、データのインポートとエクスポート、ドラッグ&ドロップ、OLE オートメーション、ActiveX、および Apple Event は動作しません。
- Web ユーザがデータを入力できるのは、テキスト、数字、日付、時刻、およびタイムスタンプの各フィールドだけです。イメージやサウンド、QuickTime ファイルなどのオブジェクトフィールドのオブジェクトを入力または変更することはできません。
- Web ユーザは、RTF (Rich Text Formatting) でデータを入力することはできません。
- Web ユーザは、複数のページの複雑なレポートを表示および印刷することはできません。
- Web ユーザは、データのスペルをチェックすることはできません。
- Web ユーザは、1つの Web ブラウザウィンドウからのみデータベースを操作する必要があります。

- Web ブラウザでは、FileMaker Pro のキーボードショートカットを利用できません。
- FileMaker Pro Advanced で作成された Web ブラウザで表示されるポップアップヘルプは、ページが読み込まれたときにのみ更新されます。
- Web ユーザはスクリプト化された [戻る] ボタンや [進む] ボタンを使用して Web ビューア内を移動することはできません。ただし、Web ユーザは Web ビューアのショートカットメニューを使用して [戻る] や [進む] を選択することができます。
- [Web ビューア内容とのインタラクションを許可] を選択解除した場合でも、Web ユーザは限定的に Web ビューアとのインタラクションが可能な場合があります。
- Web ビューアが表示されるレコードを Web ユーザが閲覧している際、一覧形式ではダウンロード時間が長くなります。

# 第 4 章

## インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン

FileMaker Pro では、インスタント Web 公開で Web フォームに表示されるデータの外觀と動作は、FileMaker レイアウトと同様です。Web 上でアクセスされるソリューションをデザインする際は、いくつかの技術上の制限に注意する必要があります。たとえば、FileMaker Pro レイアウトは CSS (Cascading Style Sheet) を使用して Web 上でレンダリングされますが、CSS では、FileMaker Pro アプリケーションと同等の強力なグラフィックサポートは提供されません。

### インスタント Web 公開用のレイアウトのデザインのヒント

Web ユーザに表示されるフィールド、およびデータの書式は、FileMaker Pro レイアウトによって決まります。

- FileMaker Pro と同様に、起動スクリプトでデフォルトの Web レイアウトを指定することができます。
- Web ユーザがどのレイアウトを表示することができるかは、ユーザアカウントとアクセス権によって決まります。
- Web ユーザは、現在のレイアウトに存在するフィールドに対してのみ検索を実行することができます。
- 検索専用のレイアウトをデザインする場合、Web ユーザは、集計、グローバル、またはオブジェクトフィールドに対する検索条件を入力できない点に注意してください。

### インスタント Web 公開でのレイアウトのレンダリングのヒント

レイアウトは、CSS (Cascading Style Sheet) を使用して Web ブラウザにレンダリングされます。一部のレイアウトオブジェクトは、CSS で表示することはできません。次に例を示します。

- 斜めの線、ペンパターン、塗りつぶしパターン、および楕円は使用しないでください。これらは Web ブラウザでは表示されません。
  - FileMaker Pro ツールで作成された角丸オブジェクトは表示できません。次に例を示します。
    - 角丸長方形は長方形として表示されます。
    - ボタンおよびタブパネルのタブは、(角の丸みのない) 長方形として表示されます。
    - 円は表示されません。
- ただし、インスタント Web 公開では角丸オブジェクトのイメージは表示できます。FileMaker Pro レイアウトツールを使用して角丸オブジェクトを描画し、オペレーティングシステムのスクリーンキャプチャ機能を使用してオブジェクトの画像を作成し、FileMaker Pro レイアウト上に画像をペーストまたは挿入します。ただしこの方法は角丸タブには使用できません。
- 複雑な画像や階層化された画像は正しくレンダリングされません。多くの要素を含む画像は、図形描画プログラムで作成して FileMaker Pro レイアウトに貼り付けることをお勧めします。
  - イメージに透明な構成部分が含まれる場合は、GIF ファイルフォーマットを使用します。
  - フォームやレポートでは、フィールドをデータの表示および印刷に十分な大きさにします。Web ブラウザでは、フィールドはアクティブな場合でも拡大されません。スクロールバーが表示されるようにフィールドの書式を設定すると、ユーザはフィールドの内容を参照できます。
  - タイムスタンプフィールドはドロップダウンカレンダーを表示するためにフォーマットされないようにする必要があります。カレンダーとオプションのカレンダーのアイコンは、[編集]モードおよび[検索]モードのタイムスタンプフィールドで表示されないようにします。
  - チェックボックスセットまたはラジオボタンセットとして書式設定したフィールドには、値一覧を横に並べて表示すると、最も見やすくなります。
  - ラジオボタンとチェックボックスは標準の HTML コントロールとして表示します。ラジオボタンやチェックボックスの一部が欠ける場合は、FileMaker Pro レイアウト上でフィールドを拡大します。

- 行間に改行文字を含める場合、ボタンはテキストの複数行を表示できます。サポートする Web ブラウザで、ボタンがテキストに対応した十分な大きさであることを確認してください。
- インスタント Web 公開で提供されるテキストスタイルには制限があります。段落のテキストスタイル、タブ、および縦方向の位置はサポートされません。また、下線、単語下線、および二重下線は、すべて通常の下線としてレンダリングされます。データベースを他のユーザと共有する前に、サポートされているすべての Web ブラウザでレイアウトを評価してください。
- レイアウトテキストが新しい行に折り返される場合は、FileMaker Pro レイアウトでテキスト境界のサイズを大きくします。たとえば、テキストが左揃えの場合は、右下のハンドルを少し右にドラッグします。
- FileMaker Pro のタイトルヘッダ、タイトルフッタ、および集計レイアウトについてはサポートされていないので、インスタント Web 公開で使用するレイアウトから削除します。
- ムービーの一部が欠けるのを防ぐには、オブジェクトフィールドがムービーとムービーコントロールを表示するのに十分な大きさであることを確認してください。
- レイアウト上で同じフィールドの複数のコピーを使用することは避けてください。Web ユーザは、同じフィールドのコピーをすべて変更しなければ保存や検索を実行できません。
- 条件付き書式はインスタント Web 公開では表示されません。

## リスト形式および表形式のデザイン上の考慮事項

インスタント Web 公開で、レイアウト表示形式を動的に選択し、現在のレイアウトでデータを操作することができます ([レイアウト設定] ダイアログボックスでそのレイアウト表示形式を利用可能にしている場合)。

次に、FileMaker Pro とインスタント Web 公開の表示形式の主な違いを示します。

- リスト形式では一度に 25 レコードが表示され、表形式では 50 レコードが表示されます。現在のレコードは、常に一番上つまり最初の行になります。新しいレコードを作成すると、現在のレコードになります。ステータスエリアのコントロールを使用して、前のレコード範囲を表示することができます。
- Web ユーザは、リスト形式および表形式でレコードと検索条件の追加、編集、および削除を行うことができます。
- 表形式では、列見出し (フィールド名) をクリックして、昇順または降順でレコードをソートすることができます。[レイアウト設定] ダイアログボックスの [表形式の設定] セクションでソートを有効にします。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

## Web ブラウザでのデータの操作のヒント

- 日付、時刻、数字、およびタイムスタンプの各フィールドの書式は、レイアウトで指定します。
- 繰り返しフィールドのデータは Web ブラウザに表示されます。
- レイアウトで定義したタブ順は、インスタント Web 公開で使用できます。ただし、フィールドは [編集] モードまたは [検索] モードでのみタブ付けされます。タブのコントロールとボタンはインスタント Web 公開のタブ順には含まれません。

**注意** Web ブラウザでのタブ順は、FileMaker Pro でのタブ順とは異なる可能性があり、どの Web ブラウザでも同様な操作がサポートされるわけではないことにご注意ください。

- インスタント Web 公開でのフィールド間またはオブジェクト間の移動では、Tab キーのみがサポートされています。
- ポップアップメニューとポップアップリストは、HTML ポップアップメニューとして表示されます。Web ユーザは、[編集] 項目を使用して値一覧を編集したり、[その他...] 項目を使用して、値一覧にない値を入力したりすることはできません。
- ソリューションに複数のファイルが含まれる場合は、すべてのデータベースでインスタント Web 公開を有効にする必要があります。関連ファイルに直接アクセスできないようにするには、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスの [インスタント Web 公開のホームページに表示しない] オプションを選択すると、データベースホームページからファイル名を除外することができます。

- ソリューションに複数のファイルが含まれている場合には、インスタント Web 公開で使用される各ファイルに、同一のアカウント、パスワード、およびアクセス権セットを作成する必要があります。関連ファイルの認証には、最初のファイルを開くときに入力するアカウントとパスワードが使用されます。
- レイアウトにポータルが含まれる場合、関連ファイルまたはテーブルもインスタント Web 公開で共有されていれば、関連レコードも Web ブラウザのポータル内に表示されます。ポータルが含まれるレコードを送信する場合、ページの読み込み後に別のユーザによってレコードの1つが変更されていることが通知されることがあります。この場合は、ページを再表示して、再度データを送信します。この状況が発生する可能性がある場合は、ポータルを「読み取り専用」フォームとして使用することを検討してください。または、[関連レコードへ移動] スクリプトステップを使用して直接編集すると、ポータル内の関連レコードのデータを編集することができます。
- Web ユーザは、ポータルレコードを作成および編集することができます。ポータルレコードを削除するには、適切なポータルレコードを選択して削除するスクリプトボタンを用意する必要があります。

## データベースのデザインに関する一般的な考慮事項

次のことに注意してください。

- インスタント Web 公開と FileMaker Pro ネットワーククライアントの両方がアクセスするデータベースをデザインする場合は、両方の技術間で互換性が保たれるように、Web クライアントを念頭に置いてデザインすることをお勧めします。
- インスタント Web 公開では、クライアントから FileMaker ホストへの通信は中間的な技術を経由します。インスタント Web 公開にデータを要求する場合、Web ブラウザから仮想の FileMaker 環境にリクエストを送信することになります。この環境がリクエストを処理し、FileMaker Pro に結果を要求して取得します。続いて、これらの結果がブラウザに戻されます。この相互処理は通常は Web ユーザにはわかりませんが、場合によっては、クライアントがどのような方法でデータベースにアクセスしても結果が同じになるような処置が必要です。Web ユーザはホストと直接接続していないので、データの変更時に直ちに通知されません。たとえば、スクリプトを更新して [レコード/検索条件確定] スクリプトステップを含め、ブラウザウインドウを再表示しなければならない場合があります。詳細については、28 ページの「スクリプトステップのヒントと考慮事項」および 31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。
- データベースはインスタント Web 公開でホストする場合に、固有のファイルネームが割り当てられる必要があります。同じ名前のホストされたデータベースが 2 つある場合、1 つだけがインスタント Web 公開のデータベースホームページに表示されます。
- アカウント名やパスワードを定義する場合には、Web で間違って解釈される可能性のある文字を使用しません。アカウント名とパスワードには、欧文文字および数字だけを使用できるように制限することもできます。
- レイアウトに設定する入力値の制限が多すぎないようにすることをお勧めします。Web ユーザがレコードを送信すると、制限に一致しないごとにエラーが返されます。
- 一般的に、エンドユーザの画面に情報を表示しない場合、エンドユーザによる直接操作を必要としない場合、FileMaker Pro ユーザインターフェースを操作しない場合、またはこれら以外の方法でエンドユーザからの操作を必要としない場合は、Web 上で公開されているデータベースに他社のプラグインを使用することができます。
- FileMaker Server Advanced を使用してデータベースをホストする場合は、FileMaker Server の Web 公開エンジンに対して有効なプラグインのみを使用します。一般的に、FileMaker Pro 専用に設計されているプラグインには、Web 公開エンジンとの互換性はありません。FileMaker Server Advanced へのプラグインのインストールの詳細については、FileMaker Server Advanced に付属の『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。
- 同じファイルに複数のブラウザウインドウからアクセスしないでください。
- ドロップダウンカレンダーフィールド書式など、一部の機能は、FileMaker Pro での場合とインスタント Web 公開の場合とで機能や外見が異なる場合があります。
- Web ブラウザでは別のファイルからフィールドをレイアウトに表示することはできません。フィールドを表示するには、もう一方のファイルでインスタント Web 公開を有効にして、現在使用中の同じアカウントとパスワードを含める必要があります。この手順は他のファイルからのフィールド値にもとづく計算フィールドにも適用されません。

- キーボードコマンドを使用してタブパネルを選択することはできませんが、Web ユーザは [オブジェクトへ移動] または [フィールドへ移動] スクリプトステップを使用するとタブパネルにアクセスできます。28 ページの「スクリプトとインスタント Web 公開」を参照してください。
- FileMaker Pro Advanced のカスタムメニューは、Web ブラウザから Web 公開データベースを参照する場合には、影響しません。
- インスタント Web 公開は、FileMaker Pro の外部ファイルと同様に、SQL の外部データソースを扱います。特にインスタント Web 公開はスクリプトしない限り外部のデータソースを認証するようにサポートされていません。FileMaker Pro で SQL の外部データソースが認証を必要とする場合、FileMaker データベースの外部データソースが要求するユーザ名とパスワードを保存することができます。FileMaker Pro では、[ファイル] メニューから [管理]、[外部データソース] を選択して、FileMaker データソースを定義して ODBC データソースに必要なユーザ名とパスワードを指定します。この変更は、FileMaker ファイルに完全アクセス権がある場合にのみ可能です。

## Web 上でのグラフィック、サウンド、およびムービーの操作

インスタント Web 公開を使用して Web 上にデータベースを公開する場合、Web ユーザは、限られた方法でオブジェクトフィールドのデータを操作することができます。

- オブジェクトフィールドのサウンドを再生したり、OLE オブジェクトを表示したりすることはできません。代わりにグラフィックが表示されます。
- グラフィック、サウンド、またはムービーをオブジェクトフィールドに追加することはできません。

**重要** イメージは、データベース自体の内部に保存するか、またはパフォーマンスを最大にするために、相対パスを使用してファイル参照として保存することができます。FileMaker Pro でデータベースをホストする場合、参照されるイメージとムービーファイルは、FileMaker Pro フォルダ内にある「Web」フォルダに保存されている必要があります。

## 初期レイアウトと表示形式の設定

起動時にスクリプトを実行するように FileMaker Pro データベースが設定されている場合、インスタント Web 公開を通じてデータベースにアクセスするユーザは、データベースを開くたびに、スクリプトの結果を確認することができます。起動スクリプトを設定すると、次のスクリプトステップを使用して Web ユーザがデータベースを開いたときに表示される画面のレイアウトと表示形式を決定することができます。

- レイアウト切り替え [レイアウト名]
- ブラウズモードに切り替え [ ]
- 表示方法の切り替え [フォーム形式]

起動時のレイアウトは、[ファイルオプション] ダイアログボックスで指定することができます。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

## ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ

インスタント Web 公開で共有されているデータベースを操作するためのステータスエリアのインターフェースコントロールは、FileMaker Pro によって自動的に生成されます。ユーザは、これらのコントロールを使用して、レコードを作成、変更、および削除する、Web ブラウザを通じてデータベースにアクセスしたときに表示形式やモードを切り替える、レコードを検索およびソートする、HTML ヘルプを開くなどの操作を行うことができます。すべてのデータベースタスクを実行するために独自のインターフェースを表示する場合は、ファイルを開くときにステータスエリアを非表示にするスクリプトを作成することができます。

インスタント Web 公開のコントロールを非表示にするには、最初のステップの 1 つとして [ステータスエリアの表示切り替え [隠す]] スクリプトステップが含まれる起動スクリプトを作成します。複数のデータベースファイルが含まれるソリューションでは、各ファイルでこの起動スクリプトステップを使用します。

Web ユーザが新しいレコードを作成できないようにするためには、以下のいずれかの手順を行います。

- ステータスエリアを隠すスクリプトを作成します。
- [アカウントとアクセス権] ダイアログボックスで、ユーザのアカウントが新しいレコードを作成できないようにします。

**重要** FileMaker Pro インスタント Web 公開のコントロールを非表示にした場合、Web ユーザは、開発者が開発したスクリプトボタンだけを使用して操作することになります。Web ユーザがソリューションからログアウトしたり、他のタスクを実行できるようにするボタンを含める必要があります。詳細については、31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。

レイアウトにスクリプトボタンを含めて、次の操作を行うことができます。

- レコードを追加、選択、移動、編集、および削除する
- 検索条件を指定して検索条件を実行する
- 必要なすべての方法でデータベースをソートする
- レイアウトおよびレイアウト表示形式を変更する
- 停止しているスクリプトを続行またはキャンセルする
- 他のデータベースファイルを開く（データベースがホストコンピュータ上で開かれていて、インスタント Web 公開を使用して共有されている必要があります）

**重要** ステータスエリアを非表示にする場合は、データベースを十分にテストし、必要なすべての機能がユーザに提供されていることを確認してください。

## Web ユーザに対するソート順の指定

Web ユーザは、現在のレイアウトのフィールドに基づいてデータをソートすることができます。Web ユーザがソートの基準にできるフィールドを制御するには、次の操作が可能です。

- ステータスエリアを非表示にして、スクリプトで指定されたフィールドでデータをソートするためのスクリプトボタンを作成する
- [アカウントとアクセス権] ダイアログボックスでユーザのアカウントでのレイアウトへのアクセスを制限する

## Web ビューアのデザインに関する考慮事項

Web ビューアを含む FileMaker Pro ソリューションをお使いの場合、インスタント Web 公開に関して次の点を考慮してください。

- Web ビューアの内容はインスタント Web 公開に意図せぬ効果をもたらす場合があります。従って Web ビューアに表示する Web サイトをテストする必要があります。たとえば、URL（フィールドデータから計算された URL、またはユーザが Web ビューア内のリンクをクリックして指定する URL）は、属性が"target=top"のページを指定できます。この属性は、インスタント Web 公開を Web ブラウザウィンドウで完全に置き換えます。
- [Web ビューアの設定] ダイアログボックスで [Web ビューア内容とのインタラクションを許可] チェックボックスの選択を解除している場合でも、Web ユーザは限定的に Web ビューアとのインタラクションが可能な場合があります。また Web ビューアがボタンとして定義されている場合でも限定的なインタラクションが発生する場合があります。
- JavaScript や Java、ActiveX、Flash などのプラグインを参照するコードを読み込む Web ページは、ユーザの Web ブラウザ内でそのコードを実行します。Web 技術によってはインスタント Web 公開でサポートされていないものや、ブラウザでのサポートとは異なるものがあります。ユーザのブラウザ内のセキュリティ設定によってプラグインがブロックされる場合もあります。

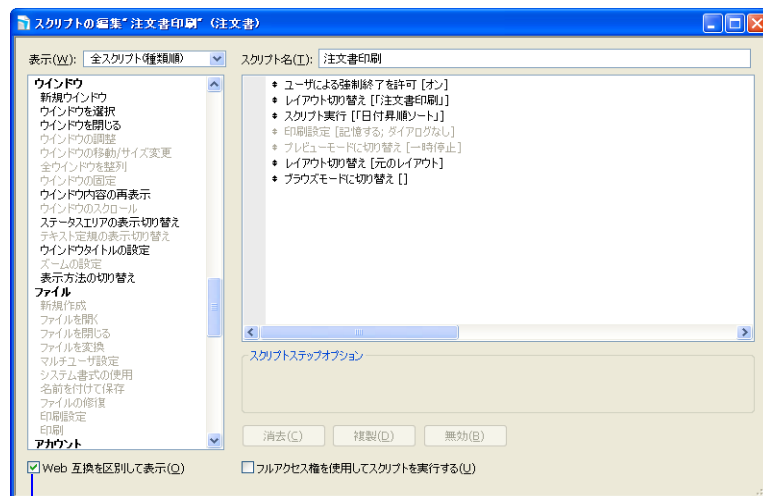
- Web ビューアによって計算される URL はコロン (:) を含みませんが、インスタント Web 公開によって URL の先頭にスキーム「http://」が自動に付けられます。エラーを防ぐため、Web ビューアを設定する際に、適切なスキームを Web アドレスに入れてください。
- [Web ビューアの設定] スクリプトステップの [戻る] 処理および [進む] 処理は、インスタント Web 公開ではサポートされていません。28 ページの「スクリプトステップのヒントと考慮事項」を参照してください。代わりに、Web ユーザはショートカットメニューを使用して [戻る] コマンドや [進む] コマンドを使用することができます。ただし、レイアウトに Web ビューアが2つ以上ある場合、最後にあるページから別のページに変更された Web ビューアにのみショートカットメニューを使用できます。これは必ずしも現在マウスマウスカーソルを置いている Web ビューアとは限りません。
- インスタント Web 公開は、インスタント Web 公開で公開された Web ビューアの内容はサポートしません。Web ビューアの URL に"/fmi/iwp"が含まれる場合、Web ページは Web ビューアで表示されません。

Web ユーザや FileMaker Pro ユーザに対して Web ビューアの動作が異なる場合があります。また、Web ビューアはインスタント Web 公開でサポートされている Web ブラウザによっても異なる動作をする可能性があります。Web ビューアの最新情報については、[www.filemaker.co.jp](http://www.filemaker.co.jp) を参照してください。

## スクリプトとインスタント Web 公開

頻繁に実行されるタスクを自動化したり、複数のタスクを組み合わせるには、FileMaker Pro の ScriptMaker 機能が便利です。インスタント Web 公開で使用すると、Web ユーザは、より多くのタスクを実行したり、ボタンをクリックするだけで一連のタスクを簡単に実行することができます。

FileMaker Pro では、インスタント Web 公開およびカスタム Web 公開で、70 個を超えるスクリプトステップを使用できます。FileMaker Pro レイアウト上にボタンを提供するか、またはデータベースを開くときや、データベースからログアウトするときに実行されるようにスクリプトを設定すると、Web ユーザは、さまざまな自動化タスクを実行することができます。サポートされていないスクリプトステップを参照するには、[スクリプト編集] ダイアログボックスの [Web 互換を区別して表示] チェックボックスを選択します。グレー表示されるスクリプトステップは、Web 上ではサポートされません。個々のスクリプトステップの詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。



Web 互換ではないスクリプトステップをグレー表示するには、[Web 互換を区別して表示] を選択します。

## スクリプトステップのヒントと考慮事項

多くのスクリプトステップは Web 上でも同じように動作しますが、設計上の制限から動作が異なるものもあります。データベースを共有する前に、Web ブラウザから実行されるスクリプトとボタンをすべて評価してください。また、異なるユーザアカウントでログインして、すべてのクライアントに対して正しく動作することを確認します。

次のヒントおよび考慮事項に注意してください。

- アカウントとアクセス権を使用して、Web ユーザが実行可能なスクリプトのセットを制限します。Web 互換のスクリプトステップのみがスクリプトに含まれることを確認し、Web ブラウザから使用する必要があるスクリプトへのアクセスのみを提供します。
- インスタント Web 公開から実行されるスクリプトで発生したエラーに対して、Web ブラウザでは警告が表示されません。ログオプションで [スクリプト エラー] が有効になっている場合、警告は「FileMaker Pro/Web logs」フォルダにある「application.log」ファイルに記録されます。33 ページの「ログファイルでの Web アクティビティの監視」を参照してください。また、エラー処理に関しては 30 ページの「スクリプトステップ」を参照してください。
- アクセス権によって制御されたステップの組み合わせを実行するスクリプトの影響を考慮します。たとえば、レコードを削除するスクリプトステップがスクリプトに含まれている場合に、このスクリプトを実行する Web ユーザがレコードの削除を許可するアカウントでログインしていない場合、このスクリプトでは、レコードを削除するスクリプトは実行されません。ただし、スクリプトは引き続き実行される場合があり、予期しない結果になる可能性があります。
- スクリプトで [スクリプトを完全アクセス権で実行] を選択すると、個々のアクセスが付与されていないタスクをスクリプトで実行することができます。たとえば、アカウントとアクセス権を使用してユーザがレコードを削除できないようにしつつ、スクリプト内にあらかじめ定義された条件下で特定のタイプのレコードを削除するスクリプトの実行を許可することができます。
- Web 互換ではないステップなど、サポートされていないステップがスクリプトに含まれる場合は、[ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップを使用して、以降のステップの処理方法を決定します。
  - [ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップオプションが有効 (オン) の場合、サポートされていないスクリプトステップが使用されていると、スクリプトの続行は停止されます。
  - [ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップがオフの場合 (デフォルト)、サポートされていないスクリプトステップはスキップされ、スクリプトの実行が続行されます。
  - このスクリプトステップが含まれない場合、スクリプトは、この機能が有効な場合と同様に実行されるため、サポートされていないスクリプトステップが使用されていると、スクリプトは停止します。
- FileMaker Pro クライアントから 1 ステップで動作するスクリプトでは、追加の [レコード/検索条件確定] ステップを実行して、データをホストに保存しなければならない場合があります。Web ユーザはホストと直接接続していないので、データが変更されたときに通知されません。たとえば、条件付き値一覧などの機能では、値一覧フィールドに結果を表示するためにはデータをホストに保存する必要があるため、Web クライアントに対する応答が遅くなります。
- 同様に、データは変更しただけではブラウザに反映されず、サーバーに保存 (送信) して初めて表示されるため、データを変更するスクリプトでは、どのスクリプトにも [レコード/検索条件確定] ステップを含める必要があります。データを変更するスクリプトステップとしては、[テキストを挿入]、[計算結果を挿入]、[直前に参照したレコードから挿入]、[現在の日付を挿入]、[現在の時刻を挿入]、[切り取り]、[コピー]、[レコード/検索条件コピー]、[全レコード/検索条件コピー]、[貼り付け] などがあります。単一ステップのボタンの多くは、スクリプトボタンに変換して、[レコード/検索条件確定] ステップを含める必要があります。Web ブラウザから実行されるスクリプトを設計する際は、スクリプトの最後に [レコード/検索条件確定] ステップを含めて、すべての変更が保存されるようにすることをお勧めします。
- クライアントのタイプに基づく条件付きスクリプトを作成するには、Get (アプリケーションバージョン) 関数を使用します。返された値に “FileMaker Web Publishing” が含まれていれば、現在のユーザがインスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスしていることがわかります。関数の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- Web ブラウザから FileMaker Pro データベースにアクセスする場合は、中間的な技術が使用されているため、ファイルを閉じる前に、Web サーバー上のアクティビティを評価する必要があります。一部のスクリプトは、Web サーバー上の仮想 FileMaker 環境内で追加の「ウインドウ」を開くため、セッションを終了するには、これらのウインドウを閉じる必要があります。Web ユーザが [ログアウト] ボタンをクリックした場合や、セッションがタイムアウトになった場合は、開いているウインドウはすべて自動的に閉じられます。詳細については、31 ページの「データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成」を参照してください。

- ファイルを変換した場合には、Web ユーザが実行する可能性のある各スクリプトを開いて、[Web 互換を区別して表示] を選択し、そのスクリプトがインスタント Web 公開で正しく実行されるようにする必要があります。
  - インスタント Web 公開では、GetLayoutObjectAttribute 関数は FileMaker Pro と同様に機能しますが、次のような違いがあります。
    - hasFocus、containsFocus、source、content 属性は、Web ブラウザが最後のページを読み込んだときの値を返します。つまり、ユーザがオブジェクトをクリックまたはタブ移動した場合や、データを送信せずに編集したり、Web ブラウザ内で別の Web ページに移動した場合、これらの属性は更新されません。
    - この関数が Web ビューア上で動作すると、content と source 属性は同じ値、すなわち URL を返します。
- GetLayoutObjectAttribute 関数の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

## スクリプトステップ

次のスクリプトステップは、Web 上とデスクトップアプリケーションで機能が異なります。すべてのスクリプトステップの詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

スクリプトステップ	インスタント Web 公開での動作
スクリプト実行	ホストまたはサーバーマシン上でファイルが開かれていて、インスタント Web 公開を使用して共有されている場合以外は、他のファイルでスクリプトを実行することはできません。
ユーザによる強制終了を許可	サポートされていないスクリプトステップの処理方法を決定します。スクリプトの続行を中止する場合は有効にし、サポートされていないステップをスキップする場合は無効にします。詳細については、このセクションの前の説明を参照してください。
エラー処理	インスタント Web 公開では常に有効（オン）です。このためスクリプトの実行時には警告メッセージが表示されません。
スクリプト一時停止/続行	ユーザが [続行] をクリックするか、スクリプトボタンをクリックして [続行] スクリプトステップを実行するまで、またはセッションがタイムアウトになるまで、スクリプトは一時停止します。
レコードのソート	インスタント Web 公開で実行するには、このスクリプトを使用してソートを保存する必要があります。
URL を開く	テキストフィールドまたは計算フィールドから、新しいブラウザウィンドウで完全な URL を開きます（対象の URL が「http://」で始まる場合は、URL に「http://」が含まれる必要があります）。
フィールドへ移動	ブラウザモードから、レコードの編集モードに切り替え、指定されたフィールドに挿入ポイントを移動します。
レコード/検索条件確定	データベースにレコードを送信します。
新規ウィンドウ	新しい物理ブラウザウィンドウを開くのではなく、既存のブラウザウィンドウ内に新しい仮想ウィンドウを開きます。各仮想ウィンドウには、FileMaker Pro ウィンドウで使用できる、異なるレイアウト、表、対象レコード、ソート順で表示できますが、Web ユーザが一度に表示できる仮想ウィンドウは1つだけです。
ウィンドウを選択	指定された仮想ウィンドウを最前面に移動します。
ウィンドウを閉じる	指定された仮想ウィンドウまたは現在の仮想ウィンドウを閉じ、下になっているウィンドウを表示します。
再ログイン	このスクリプトステップを使用すると、ユーザは、ファイルを閉じて再び開くことなく、異なるアカウントとパスワードを使用してデータベースにログインすることができます。ただし、Web ユーザに対しては、[ダイアログなしで実行] チェックボックスを選択し、このスクリプトステップでアカウント名とパスワードを指定する必要があります。
ウィンドウ内容の再表示	ブラウザウィンドウの内容エリアを更新します。[キャッシュされた結合結果を書き込む] オプションを選択し、動的または複雑な関連フィールドのコンテンツの表示を更新します。

スクリプトステップ	インスタント Web 公開での動作
Web ビューアの設定	<p>「リセット」処理は Web ビューアを元の指定 Web アドレスにリセットしますが、Web ビューアの [戻る] および [進む] 処理の履歴は消去されません。[再読み込み] 処理は、最後に設定された URL で Web ページが再読み込みされます。この URL は、初めに Web ビューアに定義された URL か、または「URL へ移動」処理で最後に設定された URL であり、現在表示されている Web ページと同じ URL であるとは限りません。</p> <p>[戻る] および [進む] 処理を使用する際、「Web ビューアの設定」は前述のとおりサポートされないスクリプトステップとして動作します。これらの処理には、最後に設定された URL の Web ページが Web ビューアに表示され、Get(最終エラー) 関数は「不明なコマンド」を返します。</p>
アプリケーションを終了	仮想ウインドウをすべて閉じ、ユーザのセッションを終了し、ユーザをデータベースホームページに戻します。

## データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成

Web ユーザがステータスエリアの [ログアウト] ボタンをクリックして適切にセッションを終了することが重要です。[ログアウト] ボタンをクリックする前にブラウザウインドウを閉じたり、ブラウザアプリケーションを終了した場合、セッションはまだ開いています。これにより、他のユーザがデータベースにアクセスできなくなったり、指定されたタイムアウトになるまではデータがハッカーによる攻撃を受けやすくなる可能性があります。

**重要** スクリプトに [アプリケーションを終了] スクリプトステップを含めることをお勧めします。このスクリプトステップは、すべてのウインドウを閉じて、ユーザのセッションを終了し、ユーザをデータベースホームページに戻します。

## FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要

計画を立てておかなかった場合、他のファイルやイメージへのリンクを再定義しなければならない場合があります。オブジェクトフィールドのオブジェクトまたはファイルリレーションシップのファイルパス情報をデータベースで保持する場合は、ファイルパスを相対パスとして保存することをお勧めします。また、すべてのファイルを同じフォルダに保存することもお勧めします。

FileMaker Server Advanced を使用してインスタント Web 公開ファイルをホストするための一般的な手順は、次のとおりです。

1. FileMaker Pro データベースを「FileMaker Server」フォルダの「Databases」フォルダに移動します。
2. 「Web」フォルダの内容を Web サーバーソフトウェアのルートフォルダに移動します。相対パスが保持されていることを確認します。  
IIS の場合は、「<ルートドライブ>\Inetpub\wwwroot」にファイルを移動します。  
Apache の場合は、「/ライブラリ/WebServer/Documents」にファイルを移動します。  
パスはサーバー管理者に確認してください。
3. Web ユーザがデータベースを特定できるように、URL を「http://<IP アドレス>/fmi/iwp」または「http://<ドメイン名>/fmi/iwp」にリダイレクトします。

FileMaker Server Advanced でインスタント Web 公開を有効にする場合の詳細については、FileMaker Server ヘルプを参照してください。

## ソリューションのドキュメントの作成

インスタント Web 公開では、Web ユーザが特定のデータベースを操作する方法について、細かい点まで説明することはできません。独自のドキュメントを用意することができれば、特に、多くのレイアウトを表示したり、スクリプトボタンでタスクを自動化する場合に役立ちます。

ドキュメントには、次の情報を含めることをお勧めします。

- レコードのブラウズおよび検索: ブラウズモードまたは検索モードでデータを操作していることが Web ユーザにわかるようにします。レコードの作成、編集、削除、検索、およびソートの方法をユーザに説明します。
- データベースの操作: 該当するレイアウトおよびレイアウト表示形式でレコードを表示する方法を Web ユーザに説明します。
- ステータスエリアの [ログアウト] ボタンをクリックして、Web ユーザが適切にセッション（ホストコンピュータへの接続）を終了することが重要です。詳細については、19 ページの「データベースからのログアウトと Web セッションの終了」を参照してください。
- FileMaker Pro Advanced でレイアウトオブジェクト用のポップアップヘルプを作成すると、開発したソリューションの操作方法を Web ユーザに説明することができます。ポップアップヘルプは、Web ブラウザのデフォルトのテキストスタイルで表示されます。

**注意** ポップアップヘルプは、ページを読み込んで初めて更新されます。ポップアップヘルプの詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

# 第 5 章

## サイトのテスト、監視、および保護

Web 上で公開されたデータベースが使用可能であることをユーザに通知する前に、データベースが意図どおりに表示され、機能することを確認することが重要です。

- レコードの検索、追加、削除、およびソートなどの機能を異なるアカウントとアクセス権セットでテストする。
- 異なるアカウントでログインして、さまざまなアクセス権セットが意図したとおりに動作することを確認する。権限のないユーザがデータにアクセスしたり、データを変更することができないようにしてください。
- すべてのスクリプトボタンをクリックして、結果が意図したとおりであることを確認する。Web で安全に使用できるスクリプトの設計の詳細については、28 ページの「スクリプトとインスタント Web 公開」を参照してください。
- 公開されたデータベースを異なるオペレーティングシステムやブラウザを使ってテストする。
- Web ページが正しく表示されない場合は、15 ページの「Web ブラウザの必要条件」および第 4 章「インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン」を参照してください。

### ネットワークに接続した状態でのデータベースのテスト

公開されたデータベースにアクセスするには、Web ブラウザソフトウェアを開き、ホストコンピュータの IP アドレスまたはドメイン名を入力して、return または Enter キーを押します。IP アドレスは、[インスタント Web 公開] ダイアログボックスで参照できます。詳細については、15 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。

### ネットワークに接続しない状態でのデータベースのテスト

ネットワークに接続しない場合でも、互換性のあるすべての Web ブラウザでデータベースをテストすることをお勧めします。Web ブラウザソフトウェアを開き、“http://localhost/”または“http://127.0.0.1/”と入力して、return または Enter キーを押します。データベースホームページに、インスタント Web 公開が有効になっていて、開いているすべてのデータベースファイルの一覧が表示されます。開いている共有データベースの一覧が表示されない場合には、15 ページの「Web から FileMaker データベースへのアクセス」を参照してください。

### ログファイルでの Web アクティビティの監視

ログオプションを設定して、データベースが Web ユーザから受け取るアクティビティを記録することができます。ログファイルを有効にすると、FileMaker によって、「FileMaker Pro 9/Web logs」フォルダにログファイルが作成されます。ログファイルは、テキストファイルを開くことができるアプリケーションで表示することができます。

ログファイルを作成するには、次の操作を行います。

1. [ファイル]メニューの[共有設定]サブメニューから[インスタント Web 公開...]を選択します。
2. [詳細オプション:]で、[指定...]をクリックして、作成するログファイルを有効にします。

選択するオプション	記録内容	ログファイル名
スクリプトエラー	Web ユーザがスクリプトを実行したときに生成されるエラーに関する情報 (たとえば、スクリプトステップが Web 互換ではない場合は、実行されないスクリプトステップが記録されます)	application.log
Web 公開エラー	Web で共有されているデータベースをアクセスまたは操作するときに生成されるエラーに関する一般情報	application.log
Web アクティビティ	Web ユーザのアクティビティに関する情報 (たとえば、ユーザの IP アドレスやアクセスしたページなど)	access.log

エラーコードの一覧と説明については、FileMaker Pro ヘルプの「FileMaker Pro エラーコード」を参照してください。  
ログファイルを作成しない場合は、ログオプション領域のチェックボックスの選択を解除します。

3. [OK] をクリックします。続いて、[OK] をクリックして変更を保存します。

次の点に注意してください。

- Web アクティビティログでは、エントリが継続的にファイルに追加されます。エントリおよびファイルは自動的に削除されないため、ファイルの容量が非常に大きくなる可能性があります。ログファイルを作成する場合は、定期的にログファイルのアーカイブを作成して、ホストコンピュータのハードディスク容量を節約することを検討してください。
- セキュリティを最大限に高めるには、Web ユーザが FileMaker Pro のフォルダにアクセスしてログファイルを表示またはコピーできないようにします。
- エントリは、FileMaker によって処理された順番にログファイルに追加されます。
- FileMaker Pro の関数を使用してユーザのアクティビティを記録することもできます。関数の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

## データの保護

データベースを公開する場合は、データへのアクセスが必要なユーザを判断することと、ユーザが実行可能なタスクを制御することが非常に重要です。データの保護の詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。

Web 上でデータベースを公開する際には、以下のセキュリティに関する考慮事項に注意してください。

- ユーザアカウントは、ファイルにアクセスするためにクライアントがどの技術を使用しているかに関係なく、同じ働きをします。たとえば、レコードを削除するアクセスを制限するアカウントを作成した場合、そのアカウント名とパスワードでデータベースにアクセスしたユーザは、Web ブラウザ、ODBC データソース、または別の FileMaker Pro のいずれからデータにアクセスしても、レコードを削除することはできません。
- 最も安全なのは、Web 公開に特化した「Web 専用」データベースを作成することです。このファイルには、外部に公開するレイアウト、スクリプト、およびフィールド定義のみが含まれるようにします。詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。
- Web ユーザが複数のクライアントでファイルにアクセスする場合は、クライアントに複数のアカウントを提供することを検討します。たとえば、Web ブラウザからデータベースにアクセスする場合は、別の FileMaker Pro からアクセスする場合よりもアクセスが制限されたアカウント名とパスワードをユーザに提供します。
- 個々のファイルに対してインスタント Web 公開を有効にする場合は、すべてのユーザにアクセスを提供する代わりに、Web ユーザにアカウントおよびアクセス権セットを割り当てます。
- 特定のアカウントでレコードごとのブラウザアクセス権が制限されていても、レコードを削除するアクセス権が制限されていない場合、ユーザは、自分では表示できないレコードを削除することができます。
- 同じアカウントで関連フィールドを開いた場合、関連データは、関連フィールドが含まれるレイアウトに表示されます。
- インスタント Web 公開では、FileMaker Pro で定義されているアカウントおよびアクセス権セットを使用して、最適なセキュリティを確保します。詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。
- 「Web」フォルダ内に重要なドキュメントを保存しないでください。FileMaker Pro では、公開する複数のオブジェクトフィールドや静的な HTML ページで共有するイメージを FileMaker Pro フォルダ内の「Web」フォルダに配置することができますが、Web サーバーのアーキテクチャのため、「Web」フォルダ内のすべてのファイルはアクセス可能な状態になっており、他のユーザによって削除される可能性があります。
- スクリプトを慎重に確認して、スクリプトが Web 互換であること、およびステップの組み合わせによって予期しない結果が生じないようにします。詳細については、28 ページの「スクリプトとインスタント Web 公開」を参照してください。

- オペレーティングシステムのベンダーが継続してセキュリティ上の問題をパッチするため、ユーザの Web ブラウザ内のセキュリティ設定に関わる機能が無効になることがあります。これらの変更により、インスタント Web 公開で Web ビューアの動作が無効になったり変更される場合があります。このような変更によってソリューションに影響が出た場合は、Web ビューアが正しく機能するようにブラウザのセキュリティ設定を変更する方法をユーザに知らせるか、自分の Web ブラウザで使用する URL は信頼できる Web サイトのみに限定するようにしてください。



# 索引

## A

- ActiveX 21
- Apache、インスタント Web 公開データベースのホスト 31
- Apple Event 21

## C

- CSS (Cascading Style Sheet) 23
  - 制限 23

## F

- FileMaker Pro
  - Web アクセスの必要条件 15
  - Web 接続の最大数 11
  - インスタント Web 公開 9
  - インスタント Web 公開との違い 21
  - 起動時のレイアウトの設定 26
  - 旧バージョンのファイルの公開 8
  - 旧バージョンのファイルの変換 8
  - 静的な Web ページの公開 14
  - データベースのホスト 7
- FileMaker Pro 7 および FileMaker Pro 8 のファイルの公開 8
- FileMaker Pro Advanced
  - カスタムメニュー 26
  - ポップアップヘルプ 22
- FileMaker Pro データベース、Web からアクセスする 15
- FileMaker Pro レイアウト
  - インスタント Web 公開用のデザイン 23
  - ポータルの使用 25
- FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて 7
- FileMaker Pro を使用してデータベースにアクセスする利点 21
- FileMaker Server Advanced
  - カスタム Web 公開 5
  - セキュリティ 20
  - データベースのフィルタ 17
  - データベースのホスト 7, 20
  - プラグインの使用 25
- FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホストについて 7
- FileMaker Pro を使用したデータベースのホストについて 7
- FileMaker Server Advanced を使用したデータベースのホスト概要 31

## G

- GetLayoutObjectAttribute 関数 30

## H

- HTML ページからデータベースへのリンク 12

## I

- IIS、インスタント Web 公開データベースのホスト 31
- IP アドレス
  - アクセスの制限 12

- 静的 7, 13
- 動的 7
  - ブラウザへの入力 15
  - ポート番号の追加 15
- ISO-Latin-1 文字セット 17
- ISP 7

## M

- Mac OS X
  - Web 上でデータベースを公開する場合の条件 6
  - Web ブラウザの必要条件 15
  - ポート番号 11

## O

- OLE 21
  - 制限 26

## R

- RTF (Rich Text Formatting) 21

## S

- SSL 暗号化 7, 20

## T

- TCP/IP ポート番号 10

## U

- [URL を開く] スクリプトステップ 30
- URL、データベースホームページへのリンク 12

## W

- Web アクティビティの監視 33
- Web スタイル、サポートされない 8
- Web セキュリティデータベース、サポートされない 8
- Web 接続の最大数、FileMaker Pro 11
- Web ビューア 7
  - Web ユーザに対する制限 22
  - セキュリティ 35
  - 操作 19
  - デザインに関する考慮事項 27
- [Web ビューアの設定] スクリプトステップ 31
- Web ブラウザ
  - データベースを公開する場合の条件 6
  - 必要条件 15
  - 開いているデータベースの URL 12
- Web ページ、データベースを参照する 15
- Web ユーザ
  - FileMaker Pro の制限 21
  - アクティビティの記録 34
  - 最大接続数 20
  - データベースへのアクセス 18
  - ファイルへのアクセスの割り当て 9

Web ビューアのデザインに関する考慮事項 27  
Web ビューアを含むレコードの操作 19  
Web ブラウザでのデータの操作のヒント 24  
Web ユーザに対するソート順の指定 27  
Web 公開における改善点 7  
Web 上でのグラフィック、サウンド、およびムービーの操作 26  
Web 上へのデータベースの公開 9  
Web 接続の最大数の確認 11  
Web ブラウザの必要条件 15  
Windows  
    Web 上でデータベースを公開する場合の条件 6  
    Web ブラウザの必要条件 15

## X

XML  
    XSLT スタイルシート 5, 14  
    エクスポート 14

## あ

アイドルセッション、接続解除 12  
アカウントとアクセス権  
    ゲストアカウント 17  
    スクリプト 29  
    設定 9  
    テスト 33  
    レイアウトの制限 23  
アカウント名およびパスワード、文字セットの制限 25  
アクセス権  
    アカウントとアクセス権も参照  
[アプリケーションを終了] スクリプトステップ 31

## い

インスタント Web 公開  
    Apache 31  
    FileMaker Pro との違い 21  
    FileMaker Pro レイアウト 23  
    FileMaker Server Advanced を使用したホスト 31  
    IIS 31  
    Mac OS X 版の必要条件 6  
    Web ユーザアクセス 9  
    Windows 版の必要条件 6  
    カスタムホームページ 13  
    概要 5  
    検索モード 18  
    ゲストアカウント 17  
    言語の選択 10  
    新機能 7  
    スクリプトステップ、FileMaker Pro との違い 30  
    スクリプトを使用した自動化 28  
    ステータスエリアの非表示 27  
    静的な IP アドレスの使用 7  
    設定の変更 10  
    ソート順の指定 27  
    データベースのデザイン 23  
    動的な IP アドレスの使用 7  
    ドロップダウンカレンダーフィールド書式 25  
    ブラウザページの表示 15  
    ブラウズモード 18  
    ポート番号の指定 10

    有効化 6, 9, 15  
    レコードへのアクセス 17  
インスタント Web の言語の選択 10  
インスタント Web の有効化 9  
インスタント Web を使用可能にする方法 6, 15  
インスタント Web 公開でのデータの操作 17  
インスタント Web 公開でのレイアウトのレンダリングのヒント 23  
インスタント Web 公開用のデータベースのデザイン 23  
インスタント Web 公開用のレイアウトのデザインのヒント 23  
インスタント Web 公開を使用してデータベースにアクセスする利点 21

## う

[ウインドウ内容の再表示] スクリプトステップ 30  
[ウインドウを選択] スクリプトステップ 30  
[ウインドウを閉じる] スクリプトステップ 30

## え

[エラー処理] スクリプトステップ 8, 30

## お

オブジェクトフィールド、制限 26

## か

カスタム Web 公開、FileMaker Server Advanced 5  
カスタム環境  
    作成 26  
    ドキュメント 20  
カスタムホームページ 13  
カスタムホームページの使用 13  
[関連レコードへ移動] スクリプトステップ 25  
外部関数、Web 公開 34

## き

旧バージョンの FileMaker Pro のファイルの公開 8  
旧バージョンのファイルの変換 8  
切り取り (Windows) またはカット (Mac OS) スクリプトステップ 29

## け

検索モード  
    インスタント Web 公開 18  
    機能 18  
    対象レコードの拡大 19  
    対象レコードの絞り込み 19  
ゲストアカウント  
    インスタント Web 公開の使用 10, 17  
    無効化 17  
    有効化 17  
言語、インスタント Web 公開用に選択 10

## こ

公開されているデータベースのテスト 33

このガイドについて 6  
[コピー]スクリプトステップ 29

## さ

サイトのテスト、監視、および保護 33  
[再ログイン]スクリプトステップ 17, 30

## し

指定した IP アドレス以外のアクセスの制限 12  
初期レイアウトと表示形式の設定 26  
[新規ウインドウ]スクリプトステップ 30

## す

スクリプト  
アカウントとアクセス権 29  
インスタント Web 公開での使用 28  
インスタント Web 公開での動作 30  
テスト 33  
名前指定によるスクリプトステップも参照  
ヒントと考慮事項 28, 30  
ログアウト 31  
[スクリプト一時停止/続行]スクリプトステップ 30  
[スクリプト実行]スクリプトステップ 30  
スクリプトステップのヒントと考慮事項 28  
スクリプトとインスタント Web 公開 28  
ステータスエリア  
言語の変更 10  
非表示 20, 26  
ステータスエリアの非表示  
概要 20, 26  
起動時 19  
切り替え 19  
ステータスエリアの非表示によるインターフェースのカスタマイズ 26  
[ステータスエリアの表示切り替え]スクリプトステップ 26

## せ

静的な IP アドレス 13  
静的な Web ページへの FileMaker Pro データの公開 13  
静的な公開 13  
静的なデータの一般的な公開手順 14  
セキュリティ  
FileMaker Server Advanced 7  
SSL 暗号化 7  
Web アクセスの制限 12  
アカウントとアクセス権 8  
ガイドライン 5  
考慮事項 34  
スクリプトステップの確認 34  
静的な Web ページ  
データアクセス 34  
ドキュメントとデータの保存 34  
複数のアカウント 34  
セッション、ログアウト 20  
設定の変更 10  
接続解除  
アイドルアカウント 12  
タイムアウトの設定 12

[全レコード/検索条件コピー]スクリプトステップ 29

## そ

送信ボタン 18, 19  
ソート順、指定 27  
[ソート]スクリプトステップ 30  
ソリューションのドキュメントの作成 32

## た

タイムアウト設定 12, 20  
他社のプラグイン 25  
FileMaker Server Advanced で 25  
タブ順 24  
タブパネル 24, 26

## て

データの保護 34  
データベース  
アクセスの制限 12  
インスタント Web の有効化 9  
インスタント Web を使用可能にする方法 6, 15  
公開前のテスト 33  
静的 Web 公開 13  
リンク 12  
データベースからのログアウトと Web セッションの終了 19  
データベースからログアウトしてセッションを終了するスクリプトの作成 31  
データベースの公開  
インスタント Web 公開 9  
インターネットまたはイントラネットへの接続 7  
旧バージョンの FileMaker Pro から 8  
データベースのデザインに関する一般的な考慮事項 25  
データベースのホスト  
FileMaker Pro 7  
FileMaker Server Advanced 7  
データベースへのアクセスの制限 12  
データベースホームページ  
ファイルの非表示 10  
リンク 12

## と

ドキュメント  
インスタント Web 公開ヘルプ 18  
カスタム環境 20  
ドロップダウンカレンダーフィールド書式 25

## に

認証、フォームベース 16

## ね

ネットワークに接続した状態でのデータベースのテスト 33  
ネットワークに接続しない状態でのデータベースのテスト 33

## は

### パスワード

複数のアカウント 34

変更 17

ログインパスワードなし 17

[パスワード変更] スクリプトステップ 17

## ひ

非アクティブな Web アカウントの接続解除 12

### 必要条件

Web 公開 6

Web ブラウザ 15

### 表形式

FileMaker との違い 24

制限 8

設定 24

デザイン 24

[表示方法の切り替え] スクリプトステップ 26

## ふ

ファイルへのログイン 16

ファイル名、データベースホームページに表示しない 24

ファイルメーカー Pro 6 以前のファイルの公開 8

[フィールドへ移動] スクリプトステップ 26, 30

### ブラウザ、Web

データベースの表示 15

データベースを公開する場合の条件 6

必要条件 15

開いているデータベースの URL 12

### ブラウザモード

インスタント Web 公開 18

機能 18

ブラウザモードでのレコードの表示と変更 18

[ブラウザモードに切り替え] スクリプトステップ 26

## へ

ヘルプ、インスタント Web 公開 18

ページ、Web、データベースを参照する 15

## ほ

### ホームページ

データベースホームページを参照

ボタン 24

### ポート番号

IP アドレスに追加 15

Mac OS X 11

Web 公開用の指定 10

設定 15

変更 11

ポップアップヘルプ、FileMaker Pro Advanced 22

## も

文字セットの制限、アカウント名およびパスワード 17, 25

## ゆ

[ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップ 29, 30

ユーザ補助 24, 32

## り

### リスト形式

FileMaker との違い 24

デザイン 24

リスト形式および表形式のデザイン上の考慮事項 24

## れ

レイアウト、アカウントとアクセス権による制限 23

[レイアウト切り替え] スクリプトステップ 26

### レイアウトの表示形式

アクセスの制限 8

切り替え 8

[レコード/検索条件コピー] スクリプトステップ 29

[レコード/検索条件確定] スクリプトステップ 25, 29, 30

レコードの検索 18

レコードを削除するスクリプト 29

## ろ

### ログアウト

重要性 19

スクリプト 31

ボタン 19

ログインページ 16

### ログファイル

Web アクティビティの監視 33

アーカイブ 34

作成 33

保護 34

ログオプション 33